

(様式第 10)

広大病医事第 19-18 号
令和元年 10 月 8 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人広島大学
学長 越智 光夫

広島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目 3 番 2 号
氏 名	国立大学法人広島大学 広島大学長 越智 光夫

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

広島大学病院

3 所在の場所

〒734-8551 広島市南区霞一丁目 2 番 3 号	電話(082) 257 - 5555
--------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	4腎臓内科
		8代謝内科
		11リウマチ科
診療実績		
消化器内科及び代謝内科については消化器・代謝内科で医療を提供している。		
神経内科については脳神経内科で医療を提供している。		
内分泌内科については内分泌・糖尿病内科で医療を提供している		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付

けること。

- 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科
5血管外科	6心臓血管外科	7内分泌外科
4心臓外科		
8小児外科		
診療実績		

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 移植外科	2 腫瘍内科	3 病理診断科	4 形成外科	5 リハビリテーション科
--------	--------	---------	--------	--------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
20床	2床	床	床	724床	746床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	534人	275人	627.9人	看 護 補 助 者	35人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	189人	54人	210.7人	理 学 療 法 士	29人	臨床検査技師	76人
薬 剤 師	69人	人	69人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	11人	そ の 他	人
助 産 師	23人	人	23人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	862人	15人	872.0人	臨 床 工 学 士	19人	医療社会事業従事者	人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	4人	その他の技術員	64人
歯科衛生士	25人	人	25人	歯 科 技 工 士	6人	事 務 職 員	399人
管理栄養士	14人	人	14人	診療放射線技師	54人	そ の 他 の 職 員	110人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	71人	眼 科 専 門 医	18人
外 科 専 門 医	49人	耳鼻咽喉科専門医	14人
精 神 科 専 門 医	12人	放射線科専門医	21人
小 児 科 専 門 医	20人	脳神経外科専門医	17人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整形外科専門医	26人
泌尿器科専門医	8人	麻 酔 科 専 門 医	26人
産婦人科専門医	8人	救 急 科 専 門 医	20人
		合 計	320人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (木内 良明) 任命年月日 平成30年4月1日

平成24年4月1日～27年3月31日の3年間、医療機器安全管理責任者に就任

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	592.2 人	18.6 人	610.8 人
1日当たり平均外来患者数	1825.5 人	500.0 人	2325.5 人
1日当たり平均調剤数			1072.1 剤
必要医師数			166 人
必要歯科医師数			28 人
必要薬剤師数			21 人
必要（准）看護師数			384 人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設の構造設備						
施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	689.5m ²	鉄筋コン クリート	病 床 数	33 床	心 電 計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	277.5m ²		病床数	16床
	[移動式の場合]	台 数	台			
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合]	床 積	114.9m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	治験資料室・薬務室・副部長室			
化学検査室	540.0m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) CO2インキュベーター, FFP解凍器, クリーンベンチ, ルミネックス, 遠心機, 分光光度計, 位相差顕微鏡, リアルタイムPCR			
細菌検査室	68.0m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) MIC測定装置, オートクレーブ, パスボックス, 安全キャビネット, 遺伝子分析装置, 恒温器, 顕微鏡, 冷蔵庫			
病理検査室	254.0m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) クリオスタット, 顕微鏡, 保冷库, 細胞診標本作成装置, バイオクリーンベンチ, 自動免疫染色装置, 超純水製造装置			
病理解剖室	122.5m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 臓器写真台, 解剖台, ホルムレイザー脱臭装置, 酸素クラスター除菌脱臭装置, 光触媒空気清浄器, ホルマリンリサイクル装置			
研 究 室	173.0m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 顕微鏡, パソコン, 超微量パーソナル分光光度計, 微量遠心機, PCR装置, 全自動核酸抽出装置, ホモジナイザー			
講 義 室	1372.1m ²	鉄筋コン クリート	室数	20室	収容定員	631人
図 書 室	42.8m ²	鉄筋コン クリート	室数	1室	蔵 書 数	10,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		83.5 %	逆紹介率	75.6 %
算出根拠	A: 紹介患者の数			19,092 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			18,557 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,402 人
	D: 初診の患者の数			24,551 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
渡邊 弘司	広島県医師会・ 常任理事	○	医療に係る安全管理 に関する識見を 有する者	無	1
福永 宏	福永宏・福永孝 法律事務所・弁 護士		法律に関する識見 を有する者	無	1
中川 圭	認定 NPO 法人乳 がん患者友の会 きらら・理事長		医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無		有・無
委員の選定理由の公表の有無		有・無
公表の方法 病院ホームページに掲載		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0 人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	0 人
インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0 人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0 人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0 人
水素ガス吸入療法心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	2 人
骨髄細胞移植による血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(いずれも従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類III度又はIV度のものに限る。)	0 人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(切除が困難で進行性のもの又は治療後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	1 人
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	60
31	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	47
7	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	6
0	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	0
12	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	37
94	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	2
4	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
0	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	60
0	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
4	シャルコー・マリー・トウス病	65	原発性免疫不全症候群	42
57	重症筋無力症	66	IgA 腎症	22
0	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	28
85	多発性硬化症／視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	7
17	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	47
3	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	4
1	クロー・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	151
14	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
52	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
7	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	22
1	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	5
15	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
66	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	17
4	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	122
0	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
0	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	0
0	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
1	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	0
17	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	2
0	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	40
3	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	50
0	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	9
0	自己食空胞性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
0	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
32	神経線維腫症	89	リンパ脈管筋腫症	7
31	天疱瘡	90	網膜色素変性症	15
2	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	3
5	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	4
0	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	77
0	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	8
12	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	32
7	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	322
6	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	463
22	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	12
11	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
13	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
9	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	0
29	バージャー病	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
3	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	0
243	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	0
93	皮膚筋炎／多発性筋炎	105	チャージ症候群	0
95	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	4
33	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	4
46	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
9	成人スチル病	109	非典型溶血性尿毒症症候群	3
8	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
113 筋ジストロフィー	23	163 特発性後天性全身性無汗症	7
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	1	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	1
117 脊髄空洞症	0	167 マルフアン症候群	7
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	2
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	1
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性性脳動脈症	2	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	177 有馬症候群	0
128 ビッカーstaff脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリズ症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスムンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソース症候群	1
145 ウェスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	1	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	1	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	2	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	0	210 単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクト症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	0
232	カーニー複合	2	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	1
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	19
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	46

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

4 指定難病についての診療					
	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・認知症ケア加算1, 2
・特定機能病院入院基本料	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算
・診療録管理体制加算	・救命救急入院料3
・医師事務作業補助体制加算	・特定集中治療室管理料3, 4
・急性期看護補助体制加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・看護職員夜間配置加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・小児入院医療管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1, 2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・病棟薬剤業務実施加算1, 2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料注11に規定する総合医療管理加算(歯科疾患管理料)および歯科治療時医療管理料	・精密触覚機能検査
・ウイルス疾患指導料	・骨髓微小残存病変量測定
・糖尿病合併症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料イ, ロ, ハ	・検体検査管理加算(IV)
・外来緩和ケア管理料	・国際標準検査管理加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・胎児心エコー法
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・療養・就労両立支援指導料 相談体制充実加算	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・がん治療連携計画策定料	・脳波検査判断料1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遠隔脳波診断
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・脳磁図
・薬剤管理指導料	・神経学的検査
・診療情報提供料(Ⅰ)及び電子的診療情報評価料の地域連携診療計画加算	・補聴器適合検査
・医療機器安全管理料1	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料2	・小児食物アレルギー負荷検査
・医療機器安全管理料(歯科)	・内服・点滴誘発試験
・在宅血液透析指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・画像診断管理加算2
・持続血糖測定器加算	・歯科画像診断管理加算1
・皮下連続式グルコース測定	・歯科画像診断管理加算2
・遺伝学的検査	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・有床義歯咀嚼機能検査, 咀嚼能力検査及び咬合圧検査	・CT撮影及びMRI撮影

・冠動脈CT撮影加算	・皮膚移植術(死体)
・外傷全身CT加算	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・乳房MRI撮影加算	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・外来化学療法加算1	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・羊膜移植術
・運動器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・がん患者リハビリテーション料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・リンパ浮腫複合的治療料	・人工中耳植込術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・認知療法・認知行動療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・医療保護入院等診療料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・口腔粘膜処置	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・レーザー機器加算	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・硬膜外自家血注入	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・センチネルリンパ節生検
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・人工腎臓(導入期加算2及び腎代替療法実績加算)、 (透析液水質確保加算)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・磁気による膀胱等刺激法	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器によるもの)
・手術用顕微鏡加算	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CAD/CAM冠	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び肛腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	

・経カテーテル大動脈弁置換術	・膀胱水圧拡張術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・輸血管理料Ⅰ
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(1日につき)	・コーディネート体制充実加算
・補助人工心臓	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器によるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器によるもの)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術(胆嚢、胆道)	・歯根端切除手術の注3
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・体外衝撃波胆石破砕術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下肝切除術	・放射線治療専任加算
・生体部分肝移植術	・外来放射線治療加算
・同種死体肝移植術	・高エネルギー放射線治療
・体外衝撃波膵石破砕術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器によるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算
・同種死体腎移植術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・生体腎移植術	・口腔病理診断管理加算

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下腎部分切除術	・
・前眼部三次元画像解析	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年間約140回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 38例 / 剖検率 7.3 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心不全地域連携サポートチーム体制の構築事業	木内 良明	病院長, 眼科	4,228,000	補委 広島県
難病特別対策推進事業	木内 良明	病院長, 眼科	1,115,000	補委 厚生労働省
ドクターヘリ導入促進事業	木内 良明	病院長, 眼科	250,699,000	補委 広島県
がん診療連携拠点病院機能強化事業	木内 良明	病院長, 眼科	48,630,000	補委 厚生労働省
産科医等確保支援事業	木内 良明	病院長, 眼科	1,153,000	補委 広島県
新人看護職員研修事業	木内 良明	病院長, 眼科	1,414,000	補委 広島県
防災訓練等参加支援事業	木内 良明	病院長, 眼科	1,749,000	補委 広島県
感染症予防事業	木内 良明	病院長, 眼科	3,269,000	補委 広島県
実践的手術手技向上研修実施機関設備整備事業	木内 良明	病院長, 眼科	8,920,000	補委 広島県
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/安全性と医療効率の向上を両立するスマート治療室の開発	栗栖 薫	脳神経外科	7,000,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による新規肝炎/肝癌治療法の開発	大段 秀樹	移植外科	33,345,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
C型肝炎ウイルス排除後の病態、生命予後、QOLに関する包括的研究	茶山 一彰	消化器・代謝内科	46,000,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エビゲノム発がんリスク診断の実用化	伊藤 公訓	消化器・代謝内科	1,700,000	補委 国立がん研究センター
うつ病の病態に基づく層別化と神経回路調整による革新的診断・治療法開発	山脇 成人	精神科	67,320,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	田原 栄俊	大学院医歯薬保健学研究科細胞分子生物学	3,619,000	補委 国立がん研究センター
革新的半月板損傷治療技術の創生研究	安達 伸生	整形外科	19,500,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
地域枠出身医師の進路に関するコホート研究とエビデンスに基づく政策の提案	松本 正俊	総合内科・総合診療科	650,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
新医師臨床研修制度は医師分布を改善したかー人口地理指標・診療科・施設からの分析ー	松本 正俊	総合内科・総合診療科	290,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
肝線維化を促進する蛋白ペリオスチンの機序解明と治療への展開	杉山 晶子	総合内科・総合診療科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
非アルコール性脂肪性肝炎に対するペリオスチンアンチセンス核酸の医薬応用	菅野 啓司	総合内科・総合診療科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
変性脂質による腫瘍性コランギオパチー発症とその制御に関する検討	田妻 進	総合内科・総合診療科	900,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
データヘルス計画に基づく高齢者脳神経外科ガイドラインデータ作成研究	井川 房夫	脳神経外科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
テロメア長とmicroRNA解析による悪性脳腫瘍化学療法強度調整システムの開発	高安 武志	脳神経外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト頭蓋骨髄間質細胞は重症神経疾患に対する新しい再生治療ソースとなるか？	光原 崇文	脳神経外科	2,200,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
悪性脳腫瘍に対するVEGF阻害剤投与時の治療効果予測	山崎 文之	脳神経外科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

細胞外エクソソームによるSurvivin発現の制御機構の解明と治療・診断への応用	濱 聖司	脳神経外科	50,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳梗塞ラットに対するヒト頭蓋骨・骨髄間葉系幹細胞移植	岡崎 貴仁	脳神経外科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
悪性腫瘍合併脳梗塞のバイオマーカー、マイクロRNAによる革新的アプローチの探索	称津 智久	脳神経内科	2,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
歯周病菌抗体価は脳梗塞の発症および転帰を予測できるか？	青木 志郎	脳神経内科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
物性統一した嚥下機能評価の確立と舌圧の有効性と嚥下障害の脳局在の解明	細見 直永	脳神経内科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
fMRIニューロフィードバック法による慢性疼痛の神経科学的修復機構の解明	吉野 敦雄	精神科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
PTSDの発症機構に即した予防法と神経活動操作による新規治療法の開発	淵上 学	精神科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
精神障害者の地域生活定着にむけたアウトリーチチームによる地域ケア連携システム開発	岡村 仁	精神科	30,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
総合失調症者の生活機能改善と包括的リハビリテーションに寄与する運動療法の開発	岡村 仁	精神科	150,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ウェアラブルデバイスを用いた行動活性化によるうつ症状改善行動予測因子の同定	神人 蘭	精神科	600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ゲノム編集を用いたBDNFメチル化操作による新規うつ病モデル・マーカー・治療開発	淵上 学	精神科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
経頭蓋磁気刺激の精緻化と個別化によるうつ病に対する有効性向上に向けた探索的研究	柴崎 千代	精神科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
思春期からの主体価値の発展過程解明	岡本 泰昌	精神科	10,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
認知機能と報酬予測機能の安静時fMRI指標開発とうつ状態バイオタイプ同定への応用	岡田 剛	精神科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
認知行動療法の情動制御機構の解明	岡本 泰昌	精神科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
アルドステロンによる網膜神経節細胞死のメカニズムの解明	廣岡 一行	眼科	596,646	補委	文部科学省科学研究費補助金
角膜感染症に対する光線力学的化学療法(PACT)の臨床応用	近間 泰一郎	眼科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血液網膜バリアに着目したVEGFを標的としない加齢黄斑変性の治療法の開発	原田 陽介	眼科	50,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
眼球の剛性の見地から緑内障の形態と機能の変化をつなぐ	木内 良明	病院長, 眼科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
上気道好酸球性炎症における客観的バイオマーカーの確立と治療への応用	竹野 幸夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
大脳機能、聴覚賦活化による加齢性平衡障害の予防・治療法の確立	工田 昌也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
I型肺胞上皮由来物質RAGEを用いた特発性肺線維症の病態解明の試み	岩本 博志	呼吸器内科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ALDH活性を指標とした肺組織幹細胞の検出と肺線維症への治療応用	中島 拓	呼吸器内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
癌幹細胞の形質維持に対するPAI-1の関与の検討;進行肺癌を治癒に導く治療の開発	益田 武	呼吸器内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肺癌患者における薬剤性肺障害の病態解明: RAGE/HMGB1 axisの視点から	山口 覚博	呼吸器内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

肺腺癌のATP関連がん代謝型Glycolysis/OXPHOS評価と薬物耐性克服	見前 隆洋	呼吸器外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
レーザープロテオミクスを用いた悪性胸膜中皮腫浸潤メカニズムの解明と臨床応用	宮田 義浩	呼吸器外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肺癌診療でのCT検査の安全性を調べるハイスループット放射線被曝評価法の開発	岡田 守人	呼吸器外科	2,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝性不整脈疾患における心臓突然死のリスク予測手段の開発と検証のための研究	中野 由紀子	循環器内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔顎顔面画像指標による生活習慣病関連骨質劣化型骨折スクリーニング法の開発	東 幸仁	循環器内科	300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
三次元イメージングを基盤とした心臓弁複合体の診断法確立と新規治療法の開発	宇都宮 裕人	循環器内科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋梗塞後リモデリングにおけるDNA損傷応答-炎症連関の探索	石田 万里	循環器内科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
川崎病冠動脈瘤形成に対する分子標的治療法の開発	吉栖 正生	循環器内科	1,120,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Bach2による制御性T細胞の分化調節と肺動脈性肺高血圧症の関与	土肥 由裕	循環器内科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病によるストレス誘導性細胞老化のROCKによる制御:基礎から臨床へ橋渡し研究	野間 玄督	循環器内科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
特殊心筋の発生分化制御機構	小久保 博樹	循環器内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
内臓脂肪解析と次世代血管分子イメージングを基盤とした新規予防戦略の構築	北川 知郎	循環器内科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
放射線治療にともなう血管疾患の分子病態の解明と予知-DNA損傷の視点から	石田 万里	循環器内科	50,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
人工心臓における連続血液粘度モニタリングシステム:推定アルゴリズム提案と臨床応用	末田 泰二郎	心臓血管外科	50,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胸部大動脈瘤ステントグラフト術後の遅延性対麻痺予測法と治療法の開発	片山 桂次郎	心臓血管外科	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抗炎症作用に優れた微重力培養した間葉系幹細胞による胸部大動脈瘤術後対麻痺予防	高橋 信也	心臓血管外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
術中簡易電気生理学的診断を元にした低侵襲で効果的な心房細動手術法の開発と確立	末田 泰二郎	心臓血管外科	40,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
2本鎖DNAを使用せず高度の安全性を保障する遺伝子治療の開発	茶山 一彰	消化器・代謝内科	6,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
B型肝炎ウイルス感染マウスを用いたゲノム編集によるHBVcccDNAの排除	今村 道雄	消化器・代謝内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
circulating tumor DNAを用いた肝癌の治療耐性獲得機序の解明	大野 敦司	消化器・代謝内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ゲノムバイオマーカーとカプセル分光画像によるリウマチ関連小腸粘膜傷害の早期診断	岡 志郎	消化器・代謝内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト培養肝細胞を用いた非アルコール性脂肪肝炎のin vitroモデルの作成	村上 英介	消化器・代謝内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
マウス肝線維化を抑制する新規インテグリン抗体の作用機序と治療応用への集大成研究	茶山 一彰	消化器・代謝内科	150,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胃上皮性腫瘍におけるヘリコバクターピロリ除菌の脱腫瘍化誘導機構の解明	伊藤 公訓	消化器・代謝内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肝炎ウイルス非存在下肝発癌に関連する新規遺伝的要因による肝発癌リスク評価法の開発	三木 大樹	消化器・代謝内科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

肝胆膵がんの多元的オミックス解析による分子機構の解明	相方 浩	消化器・代謝内科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病患者における肝発癌バイオマーカーの探索	相方 浩	消化器・代謝内科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肝癌循環腫瘍細胞の免疫回避機構解明と制御法の開発	小林 剛	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
微小重力環境を用いた胃癌オルガノイドの確立と新規治療開発のための基盤的研究	田邊 和照	消化器外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト化マウスによる抗ドナー特異的HLA抗体産生機序の解明と個別化治療への臨床応用	田原 裕之	消化器外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肝癌肝切除における血液凝固異常と術後肝不全、肝転移促進に関するメカニズムの解析	黒田 慎太郎	消化器外科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抗ドナーHLA特異的抗体陽性症例に対する新規脱感作療法の開発	井手 健太郎	消化器外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
膵癌に対する化学療法における、効果予測のバイオマーカーを用いた個別化治療の確立	近藤 成	消化器外科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ステロイド受容体を標的にした新規制御性T細胞誘導法の開発と臓器移植への応用	田中 友加	移植外科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
他家iPS細胞を用いたHLA適合移植後の新たな拒絶機構の解明と克服法の開発	大段 秀樹	移植外科	7,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
エピゲノム調節を介したアルドステロン合成制御機構の解明と創薬標的分子の探索	小武家 和博	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
クロマチン修飾による褐色脂肪細胞分化制御機構の解明	大野 晴也	内分泌・糖尿病内科	4,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
生活習慣の欧米化によるインクレチン・グルカゴン分泌の変化	米田 真康	内分泌・糖尿病内科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体シャペロンを基盤としたアルドステロン合成制御機構の解明と創薬標的分子の探索	一町 澄宣	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体カルシウムイオン調節を基盤にしたアルドステロン合成制御機構の解明	沖 健司	内分泌・糖尿病内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
温度変化による生体機能の変化に寄与するプロリン異性化酵素Pin1の役割	浅野 知一郎	内分泌・糖尿病内科	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
関節リウマチの関節破壊と寛解休業後再燃リスクを予測する画期的バイオマーカーの探索	平田 信太郎	リウマチ・膠原病科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Wnt5a/ALCAM陽性乳癌に対する複合抗体療法を中心とした新規治療の開発	網岡 愛	乳腺外科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Wnt5aシグナル伝達経路を標的としたER陽性乳癌に対する新規治療法の開発	角舎 学行	乳腺外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
通信用微弱電波を用いた非侵襲的かつ携帯型の新規乳癌検診画像システムの開発	笹田 伸介	乳腺外科	2,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
乳癌における腫瘍浸潤リンパ球と腫瘍内不均一性を評価する画像診断システムの開発	舩本 法生	乳腺外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
iPS細胞を用いた先天性骨髄不全症候群からの白血病発症機序解明と新規治療法の開発	望月 慎史	小児科	2,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Stat1機能獲得型変異ノックインマウスを用いた感染症発症の分子病態解析	津村 弥来	小児科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ゲノム編集技術を用いた先天性好中球減少症の病態解析と治療開発	小林 正夫	小児科	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
マルチオミックス解析を用いた原発性免疫不全症の病因病態解析	岡田 賢	小児科	3,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

包括的アプローチによる慢性皮膚粘膜カンジダ症の分子病態の解明と治療標的の探索	岡田 賢	小児科	3,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ディスレクシア児の読字における視覚言語情報処理の特性と発達に関する脳科学研究	梶梅 あい子	小児科	150,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新生児期早期の腸内細菌叢が制御性T細胞を介して宿主免疫に及ぼす影響	早川 誠一	小児科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
MHC交差性T細胞応答の構造生物学的基盤の解明による獲得免疫系の新しい理解	一戸 辰夫	血液内科	2,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
細胞外小胞を介した幹細胞相互作用による組織修復機構の解明と被ばく医療への応用	一戸 辰夫	血液内科	3,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
初期胚における放射線細胞応答としてのエピジェネティクス変化が細胞分化に与える影響	本庶 仁子	血液内科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
造血幹細胞移植後の再発を抑制するメカニズムの解明と養子免疫療法への応用	川瀬 孝和	血液内科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
低線量・低線量率放射線被ばくが疾病モデル動物の全身免疫能に及ぼす影響	一戸 辰夫	血液内科	200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
低線量放射線被ばくによる老化機構と発がん影響研究	本庶 仁子	血液内科	3,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
難治性造血器腫瘍におけるPVT1-MYC融合遺伝子の解析および臨床応用	名越 久朗	血液内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
アトピー性皮膚炎由来黄色ブドウ球菌の標的抗原とその制御物質の探索	岩本 和真	皮膚科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血管内皮細胞培養シートを用いた蕁麻疹モデルの構築と血液凝固因子の役割の解明	秀 道広	皮膚科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
生体内環境を構築したリアルタイムin vitro血管透過性評価法の開発と応用	柳瀬 雄輝	皮膚科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
皮膚における毛包および汗腺組織への分化を運命づけるメカニズムの探索	高萩 俊輔	皮膚科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ウェアラブル端末を用いた日常生活動作における体幹・四肢運動機能評価とロコモ対策	中西 一義	整形外科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
関節軟骨片とmicroRNA・エクソソームを用いた新規関節軟骨治療の開発	安達 伸生	整形外科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
microRNAエンコーディング腫瘍溶解性ウイルスによる多段階的悪性腫瘍治療戦略	久保 忠彦	整形外科	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
microRNAと骨髄単核球移植を併用した骨壊死症に対する新たな治療戦略	庄司 剛士	整形外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
エクソソームによる骨肉腫の転移メカニズムの解明	古田 太輔	整形外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
科学的根拠のある利き手・非利き手別リハビリテーションプログラムの構築	砂川 融	整形外科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
神経ペプチドを標的とした変形性関節症の新規治療戦略策定に向けた分子機序解明	中佐 智幸	整形外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
世界最高速の光偏向方式OCTによる3次元組織構造計測と間接軟骨組織評価への応用	石川 正和	整形外科	150,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
膝前十字靱帯再建術後に再断裂を生じる重層的因子解明への新規アプローチ	中前 敦雄	整形外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
悪性高熱症の新規原因遺伝子の機能解析	安田 季道	麻酔科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
悪性高熱症の新規原因遺伝子の探索	野田 祐子	麻酔科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

局所麻酔薬が細胞内カルシウム濃度に与える影響についての研究	大月 幸子	麻酔科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた悪性高熱症の低侵襲的診断法の確立	近藤 隆志	麻酔科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病性神経障害性疼痛に対する抑肝散と加味逍遙散の鎮痛効果の検討	加藤 貴大	麻酔科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
培養ヒト骨格筋細胞を用いた運動誘発性横紋筋疾患の発症予防と発症予測に関する研究	河本 昌志	麻酔科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
間葉系幹細胞移植による腎臓におけるストレス誘導性老化の抑制	正木 崇生	腎臓内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
腎疾患に対する超音波療法の有効性に関する研究	中島 歩	腎臓内科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Jmjd3過剰発現マウスを用いたエピジェネティックな前立腺癌発症機序の解明	松原 昭郎	泌尿器科	1,550,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
アンドロゲン応答性の転写超保存領域を標的とした前立腺がん新規診断・治療法の開発	稗田 圭介	泌尿器科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
がん幹細胞性制御遺伝子を標的とした膀胱癌の新規治療法の開発	林 哲太郎	泌尿器科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
去勢抵抗性前立腺癌オルガノイドの樹立とその解析による個別化医療の確立	亭島 淳	泌尿器科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
去勢抵抗性前立腺癌におけるPRL1を標的とした新規治療戦略の開発	福岡 憲一郎	泌尿器科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
去勢抵抗性前立腺癌マーカーRegIV・OLFM4を標的とした新規診断・治療開発	松原 昭郎	泌尿器科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Pin1阻害剤による新規尿路結石予防薬の開発を目指して	上野 剛志	泌尿器科	390,444	補委	文部科学省科学研究費補助金
磁気ターゲティングを用いた骨髄幹細胞移植による膀胱再生の開発	井上 省吾	泌尿器科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
尿路上皮がんの抗がん剤耐性におけるp38 MAPKの役割と新規阻害薬の応用開発	神明 俊輔	泌尿器科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胎盤絨毛細胞合胞体化の分子細胞生物学的機序の解明:妊娠高血圧症候群発症病態の解明	工藤 美樹	産科婦人科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
CFDを用いた血管内塞栓物質の血管内動態シミュレーションと新規デザイン開発	馬場 康貴	放射線診断科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Dual-Energy CT による構成元素解析に着目した腎病変CT診断法の開発	本田 有紀子	放射線診断科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
MRIを用いた胎児骨描出に関する研究	松原 佳子	放射線診断科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
fMRIを用いた読影時の脳活動の検討	海地 陽子	放射線診断科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
深層学習を用いた仮想高線量化技術による放射線画像検査の被爆最小化	栗井 和夫	放射線診断科	180,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
生体内外のMRI画像検討による仮想生体病理作成の検討	中村 優子	放射線診断科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
全身MRIと次世代型シーケンスによる骨髄造血器疾患の網羅的評価と治療戦略への応用	高須 深雪	放射線診断科	600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
逐次近似画像再構成法を用いた低線量CTにおける冠動脈石灰化スコアの確立	立神 史稔	放射線診断科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
低線量CTによる肺がん検診の至適撮像線量に関する生物学的及び診断学的研究	坂根 寛晃	放射線診断科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

低電圧CTにおけるX線被ばくのDNA損傷に対する影響の検討	栗井 和夫	放射線診断科	950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ラジオ波焼灼療法におけるCTによる三次元的温度分布測定法の開発と臨床応用	富士 智世	放射線診断科	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
CTやMRIにおける造影剤のDNA損傷に対する影響の検討	福本 航	放射線診断科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
全身循環モデルを用いたMR造影シミュレータ	檜垣 徹	放射線診断科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
機械学習を使用したロバスト最適化放射線治療計画法の確立	三浦 英治	放射線治療科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
初発孤立性肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の有効性を検証する多施設共同試験	木村 智樹	放射線治療科	350,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
食道癌放射線療法における放射線感受性を加味した正常臓器耐容線量評価法の開発	西淵 いくの	放射線治療科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
直腸癌個別化医療に向けたDNA修復能に基づく治療効果及び有害事象予測指標の構築	今野 伸樹	放射線治療科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	木村 智樹	放射線治療科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肺癌に対する機能的画像を用いたオーダーメイド放射線治療法の臨床応用	木村 智樹	放射線治療科	1,050,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
放射線治療施設におけるリアニック出力線量測定データ収集・分析・管理システムの開発	小澤 修一	放射線治療科	200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
デジタルPCR法を応用した非侵襲的小児がん診断法の開発	栗原 将	小児外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遊離核酸を用いた小児悪性腫瘍に対するFluid Biopsy法の確立	上田 祐華	小児外科	9,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小児がん研究グループによる小児肝がんの海外診療状況調査と国際共同臨床研究基盤整備	栗原 将	小児外科	400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
トリプルネガティブ乳がん細胞に対するレスパイトロールによる新規治療・予防法の開発	谷本 圭司	高度救命救急センター	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
間質性肺炎急性増悪の人種差および好中球転写因子を用いた多角的病態解明と治療開発	大下 慎一郎	高度救命救急センター	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
低酸素応答性転写抑制因子DECを標的としたがん分子標的治療法開発研究	谷本 圭司	高度救命救急センター	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
敗血症における低体温が好中球造血に及ぼす影響とその機序の解明	志馬 伸朗	高度救命救急センター	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
好塩基球活性化に着目したアナフィラキシーの病態解明と新規治療戦略の確立	山賀 聡之	高度救命救急センター	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
次世代シーケンセス法を用いたARDS末梢気道細菌叢解析による多角的病態解明	京 道人	高度救命救急センター	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
重症呼吸不全患者の気道および血液検体を用いた多角的病態解明および新規治療法開発	田邊 優子	高度救命救急センター	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
災害時における衛星通信を利用したドローンの有効活用	貞森 拓磨	高度救命救急センター	600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
間質性肺炎急性増悪の治療標的分子同定および体外式膜型人工肺を用いた新規治療法開発	木田 佳子	高度救命救急センター	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
前立腺オルガノイドを用いた慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群の病態解明	北野 弘之	感染症科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
NSAIDsリボジショニングによるNF- κ B阻害を介した歯髄炎治療法の開発	土屋 志津	歯科保存診療科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

がん細胞が産生する新規鎮痛ペプチドの同定と鎮痛機序の解明、新しい疼痛治療戦略	本山 直世	歯科保存診療科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
象牙質基質タンパク質 Phosphophoryn による抗炎症作用機構の解明	小武家 誠司	歯科保存診療科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
高齢者における皮膚潰瘍・褥瘡に対する効果的治療法・予防法の開発	本山 直世	歯科保存診療科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
根尖性歯周炎におけるIL-35による炎症制御機構の解明	進藤 智	歯科保存診療科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
歯髄・根尖歯周組織に生じた炎症の即時診断及び局所的な炎症制御・再生誘導療法の開発	土屋 志津	歯科保存診療科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
難治性疼痛における血小板活性化因子合成酵素の役割と治療戦略・歯科領域への応用	本山 直世	歯科保存診療科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
MMD2変異マウスを用いた侵襲性歯周炎の病態解明	水野 智仁	歯周診療科	6,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
NR4A1を標的とした薬物性歯肉増殖症の新しい治療法開発のための基礎研究	松田 真司	歯周診療科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
フェニトイン・ニフェジピン誘導性歯肉増殖症のメカニズム解明	岡信 愛	歯周診療科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
マクロファージを標的とした脳由来神経栄養因子による歯周炎治療の基礎研究	武田 克浩	歯周診療科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
三次元間葉系幹細胞集塊を細胞製剤として応用する新規歯周組織再生療法開発	本池 総太	歯周診療科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
歯周炎で誘導されるRNA結合蛋白HuRを介した関節リウマチ悪化メカニズムの解明	應原 一久	歯周診療科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
神経堤細胞由来間葉系幹細胞と細胞集塊培養技術を用いた新規歯周組織再生療法開発	栗原 英見	歯周診療科	3,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
軟骨誘導をほどこした間葉系幹細胞集塊による新規歯周組織再生療法開発	竹脇 学	歯周診療科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
立体培養間葉系幹細胞集塊の細胞分化を制御するメカノトランスダクション機構の解析	加治屋 幹人	歯周診療科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
CD133陽性・陰性口腔癌細胞の細胞接着分子の発現差異とそれを標的とした診断治療	坂上 泰士	顎・口腔外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
iPSC特異的糖鎖認識レクチンの癌幹細胞マーカーとしての有用性と診断治療への応用	中峠 洋隆	顎・口腔外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
$\alpha 2$ -アンチプラスミン遺伝子搭載センダイウイルスベクターによる新規口腔癌治療研究	浜名 智昭	顎・口腔外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ゴーリン症候群特異的iPSCの樹立とゲノム手術による囊胞性歯源性腫瘍発生機構解明	濱田 充子	顎・口腔外科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
癌抑制遺伝子Pten異常カウデン症候群iPS細胞を用いた発症機序解明と治療法開発	神田 拓	顎・口腔外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血中循環口腔癌細胞の分離とその細胞特性解析によるリキッドバイオプシーの確立研究	小泉 浩一	顎・口腔外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌のドライバー候補遺伝子を標的とした海洋生物由来生理活性物質の探索と創薬研究	吉岡 幸男	顎・口腔外科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌幹細胞ニッチにおける制御性ケミカルメッセンジャー機能の解明と診断治療応用	岡本 哲治	顎・口腔外科	5,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔扁平上皮癌由来Side Population細胞の癌幹細胞としての特性解析	虎谷 茂昭	顎・口腔外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
無血清培養系での歯髄由来iPS細胞の樹立とその未分化性と分化多能性維持因子の探索	田口 有紀	顎・口腔外科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

染色体パセンジャー複合体タンパクの分解とその破綻による航空発癌機構の解明と制御	岡本 哲治	顎・口腔外科	300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
TMEM16E蛋白分解制御機構と機能の解明	水田 邦子	口腔顎顔面再建外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
エナメル上皮腫の増殖機構の解明と分子標的薬を用いた治療戦略	鳴瀬 貴子	口腔顎顔面再建外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌におけるSnailを介した癌幹細胞特性の後天的獲得機構の解明	植月 亮	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌細胞のEMT調節機構におけるZIPファミリー分子の解析	島末 洋	口腔顎顔面再建外科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔粘膜における核酸認識と抗菌ペプチドによる新規応答調節機構の解明	太田 耕司	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔粘膜細胞のCandida albicans 認識とHO-1の新規炎症制御機構	福井 暁子	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
骨形成能と抗菌活性を有する高機能性連通多孔体ハイドロキシアパタイトの開発	武知 正晃	口腔顎顔面再建外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
CD44high/ALDH1high口腔癌細胞におけるRHAMMの機能解析	清野 紗矢香	口腔顎顔面再建外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
歯由来の間葉系幹細胞におけるTh1系サイトカインによる新規分化誘導調節機構の解明	石田 陽子	口腔顎顔面再建外科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新規EMT関連遺伝子DUOX1が誘導する唾液腺癌の浸潤機構の解析	小野 重弘	口腔顎顔面再建外科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
唾液腺癌幹細胞における転写因子NR4A2を介した抗癌剤抵抗性のメカニズムの解析	石岡 康希	口腔顎顔面再建外科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
薬物徐放制御能を有する次世代型人工骨としてのインテリジェントマテリアルの開発	二宮 嘉昭	口腔顎顔面再建外科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ALS患者の経口摂取延伸を目指すPAP療法最適期間の解明	平岡 綾	口腔インプラント診療科	794,159	補委	文部科学省科学研究費補助金
オーラルフレイルの早期発見・早期改善は全身フレイルを阻止できるか	吉川 峰加	口腔インプラント診療科	820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
スフィンゴミエリン/脂質ラフトを標的としたインプラント周囲炎の新たな予防法の開発	呉本 晃一	口腔インプラント診療科	1,043,490	補委	文部科学省科学研究費補助金
マルチセンターリサーチによる日中覚醒時ブラキシズムの診断基準確率への挑戦	津賀 一弘	口腔インプラント診療科	280,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
骨メタボリズム促進型インプラント治療の確立	久保 隆靖	口腔インプラント診療科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
人工呼吸器関連肺炎の発症リスク軽減を目指した新規洗口剤の開発	岡崎 洋平	口腔インプラント診療科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
要介護高齢者の食事形態を決定する新規食品圧搾力検査の開発	森 隆浩	口腔インプラント診療科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
感染・汚染劣化防止機能を有した抗菌性医療用人工皮膚の開発	阿部 泰彦	口腔インプラント診療科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新しい咀嚼破砕圧検査の開発	津賀 一弘	口腔インプラント診療科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
多角的音情報に基づく口腔機能・摂食嚥下機能評価システムの開発と検証	津賀 一弘	口腔インプラント診療科	300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
インプラント支持を可能とする生体活性チタン多孔体を用いた骨再建療法の確立	土井 一矢	咬合・義歯診療科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ブラキシズムの長期的動態の脳波筋電図学的分析に基づくスプリント非連続着用の研究	安部倉 仁	咬合・義歯診療科	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

骨軟骨由来新規可溶型FGF受容体の機能解析と骨軟骨再生への応用	香川 和子	咬合・義歯診療科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
細胞制御機能性メンブレンの新規開発	沖 佳史	咬合・義歯診療科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
反復舌運動検査とトレーニング法の新開発	比嘉 千亜己	咬合・義歯診療科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
連通ハニカム構造を付与したポーラスチタンを用いる新規バイオマテリアルの創製	森田 晃司	咬合・義歯診療科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
SDF-1徐放性スキャホールドを用いた骨再生誘導技術の確立と顎裂閉鎖治療への展開	伊達 智美	矯正歯科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Semaphorin 3Aの軟骨再生能の検討	角 千佳子	矯正歯科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
天然由来フラボノイドとアモロゲンペプチド創薬を利用した歯根吸収予防治療への応用	吉見 友希	矯正歯科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
下顎頭軟骨の炎症発現メカニズムの解明とSema3Aを用いたPCRの予防法の確立	廣瀬 尚人	矯正歯科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
下顎頭軟骨破壊機序の解明とコールドレーザーを応用した変形性顎関節症治療法の確立	柄 優至	矯正歯科	2,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
機能性アモロゲンペプチド創薬とレーザーを応用した先進的歯根吸収予防治療法の確立	國松 亮	矯正歯科	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
歯髄、脂肪由来MSCsとアモロゲン由来新規ペプチドの歯周組織再生への応用	栗田 哲也	矯正歯科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
バイオエンジニアリングによる2層構造を持つ軟骨組織の構築と顎関節修復治療への応用	杉野 浩孝	矯正歯科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
乳歯歯髄由来間葉系幹細胞における骨再生メカニズムの解明と最適な細胞移植条件の探索	中島 健吾	矯正歯科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
微小環境構築による乳歯歯髄幹細胞(SHED)の動態制御と口蓋裂骨再生治療への応用	谷本 幸太郎	矯正歯科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
不飽和脂肪酸およびレゾルビンを用いた顎関節症治療法の新規確立	矢野下 真	矯正歯科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
変形性顎関節症の軟骨破壊に対するAngptl2の作用機序解明と新規治療法への応用	麻川 由起	矯正歯科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
慢性疼痛に対するwithaferin Aの鎮痛効果とそのメカニズム解明	堀江 佳代	矯正歯科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
由来の異なる間葉系幹細胞と半導体レーザーを用いた骨再生技術と顎裂閉鎖治療への展開	鷲見 圭輔	矯正歯科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
コールドレーザーを応用した歯の移動時の歯周組織代謝活性化と臨床応用	郡司 秀美	矯正歯科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
児童相談所内一時保護施設入所児童の口腔衛生状態と虐待との関連および歯科保健行動	新里 法子	小児歯科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小児齲蝕のさらなる低減へ向けた原因因子の解明と予防法の確立	大原 紫	小児歯科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
幼若期ストレスが脳発達期に及ぼす影響へのドパミン神経系の係わり	光畑 智恵子	小児歯科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Speech Sound Production in the Bilingual Brain	VERDONSCHOT RINUS GERARDUS	歯科放射線科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳はどのように文法を生み出すのかー東アジア言語比較認知神経科学からの探求ー	VERDONSCHOT RINUS GERARDUS	歯科放射線科	200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
プロバイオティクス(L8020菌)を用いた障害者の歯周病発症リスクの軽減	尾田 友紀	障害者歯科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

次世代シーケンサーによる剥離上皮膜を有する要介護高齢者の口腔と咽頭の細菌叢解析	岡田 芳幸	障害者歯科	50,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
動脈硬化患者におけるプロポーフォール使用時の中心血圧低下の機序と予測因子	岡田 芳幸	障害者歯科	2,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肥満コントロールのための褐色脂肪細胞分子メカニズム解明研究	大植 香菜	歯科麻酔科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
舌痛症に対する抗うつ薬と認知行動療法による治療効果の脳機能画像的評価	土井 充	歯科麻酔科	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
側坐核のドパミン神経刺激による下行性鎮痛系の増強を応用した新しい全身麻酔法の開発	入船 正浩	歯科麻酔科	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
プロバイオティクスによる周術期口腔機能管理の有用性	河口 浩之	口腔総合診療科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
H.pylori菌体成分の口腔粘膜炎症誘導機構と胃癌患者の口腔内細菌叢変化	西 裕美	口腔総合診療科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ロービジョン患者が利用し易い医療機関Webページのコンテンツ要件の定義	田中 武志	地域連携歯科医療部	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
HPV16 陽性口腔扁平上皮癌における遺伝子メチル化を介した悪性化機構の解明	杉山 勝	口腔健康科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ジルコニアの応用範囲拡大に向けた新規微小維持の開発	下江 幸司	口腔健康科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト多能性肝細胞由来神経堤細胞を用いた歯科用新素材の安全性評価系の開発	二川 浩樹	口腔健康科	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔機能データを補綴装置の設計に応用するCAD/CAMシステムの構築	田地 豪	口腔健康科	250,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
口腔扁平上皮癌におけるメカニカルストレスを介した癌幹細胞形質の制御機構の解明	重石 英生	口腔健康科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
夜遅い食事は歯周病のリスクを上げるか？:食事の質と接種時刻の比較研究	二川 浩樹	口腔健康科	40,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
TLR2経路を介したred complex菌性感染のNASH病態増悪機構の解明	古庄 寿子	口腔検査センター	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
EZH2エピジェネティック制御による肝内在性NK細胞活性化機構の解明	大平 真裕	未来医療センター	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
microRNAに着目した肥満による変形性膝関節症の発症機構の解明	眞田 洋平	未来医療センター	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Systems Bone Biology〜骨・軟骨疾患の発症予測から疾患予防へ	味八木 茂	未来医療センター	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
トランスサイレチンに起因するアミロイド形成を阻害する食品機能成分の抗老化作用	味八木 茂	未来医療センター	300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体ストレスセンサーOASISを介した脊髄損傷後グリオシス機構の解明と制御	亀井 直輔	未来医療センター	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
若年発症の抗NMDAR脳炎における遺伝素因の検討	小林 良行	周産母子センター	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
H3K27脱メチル化酵素JMJD3の阻害による腎虚血再灌流障害に伴う腎老化の制御	土井 盛博	透析内科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
serrated pathway由来大腸癌の個別化医療の確立に向けて	田中 信治	内視鏡診療科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
パターン投影と深層学習を利用した頑健で高精度な3次元内視鏡システム	田中 信治	内視鏡診療科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
マウス腫瘍同所移植モデルを用いた炎症性癌微小環境の研究	林 亮平	内視鏡診療科	2,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

早期胃癌リンパ節転移陰性条件に関する分子病理学的解析	佐野村 洋次	内視鏡診療科	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
消化管内視鏡画像解析による客観的指標の構築と汎用診断支援システムの開発	田中 信治	内視鏡診療科	350,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子改変オルガノイドを用いたドライバー変異による正常胃粘膜の初期変化の解析	大上 直秀	病理診断科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
消化管癌の組織学的多様性と超保存領域T-UCRからみた分子機構の解明と診断応用	仙谷 和弘	病理診断科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
腸型・胃型胃癌オルガノイドを用いた新規癌幹細胞標的治療の探索	坂本 直也	病理診断科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
網羅的遺伝子発現解析に基づく中皮腫診断の特異的マーカーの検出	武島 幸男	病理診断科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ロボットによる下肢切断術後早期荷重とneurorehabilitation	木村 浩彰	リハビリテーション科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
スマート都市・建築時代の温熱環境弱者に対する自立的活動支援マネジメントシステム	前田 慶明	リハビリテーション科	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
筋収縮反応と筋疲労後の回復時間を改善させる新たなストレッチング方法の確立	前田 慶明	リハビリテーション科	900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
亜全身照射モデルを用いた腸癌を防護する放射線防護剤の探索	高橋 一平	放射線部	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
食物抗原の吸収と食物アレルギーの感作を増強する因子の探索とその機構の解析	横大路 智治	薬剤部	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
エビ依存性運動誘発アナフィラキシーの原因抗原解析と診断・発症予防への応用	松尾 裕彰	薬剤部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抗がん剤注射の投与量に対するdose banding導入による医療の経済効果	本永 正矩	薬剤部	410,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抗炎症効果の高い間葉系幹細胞を微重力培養して用いた虚血心筋細胞の保護と再生	黒崎 達也	総合医療研究推進センター	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
社会的公正感を用いたパワーハラスメントのマネジメントに関する研究	佐藤 陽子	看護部	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Dual Energy CTを使用した造影剤特定及び線量計算システムの構築	河原 大輔	診療支援部	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病網膜症患者に対して眼底出血を生じさせない新しい運動指針の確立	河江 敏広	診療支援部	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
生体肝移植術後患者に対する受動立位と移植肝血行動態の関心の解明	皿田 和宏	診療支援部	490,152	補委	文部科学省科学研究費補助金
パーキンソン病の疾患特異的な筋活動に着目した新規評価ツールの確立とその臨床応用	西川 裕一	診療支援部	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
RFID技術を活用した個人線量計装着検知システムの構築	田村 恵美	診療支援部	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
変形性膝関節症進行抑制に向けた膝関節急速内反運動改善に対する介入研究	島田 昇	診療支援部	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
障害者スポーツ選手の熱中症事故を防ぐ-2020年東京パラリンピックを見据えて-	福原 幸樹	診療支援部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
カーボンナノチューブセンサーを用いた大規模ACL損傷リスク評価システムの開発	平田 和彦	診療支援部	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
敗血症患者に対する生活の質改善のための早期リハビリテーション方法の構築	對東 俊介	診療支援部	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
利用者行動分析に基づく、電子カルテの真正性・医療安全阻害要因の抽出と改善	津久間 秀彦	医療情報部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計25件

呼吸ガスセンシングによる病状診断と予測アルゴリズム開発	宮内 睦美	口腔検査センター	1,010,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
骨粗鬆症治療薬であるビタミンD誘導体(ED-71)を用いた口腔癌治療の開発研究	新谷 智章	口腔検査センター	700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
歯周炎の誘導する早産発症過程におけるGalectin-3の役割に関する総合的研究	宮内 睦美	口腔検査センター	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
腫瘍分化度と遺伝子変異に基づいた歯原性腫瘍の臨床的遺伝子診断システムの構築	北川 雅恵	口腔検査センター	151,371	補委	文部科学省科学研究費補助金
唾液腺ならびに歯原性腫瘍の分子病理学的診断	小川 郁子	口腔検査センター	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Bio Tubeを用いた集合リンパ管再生研究	吉田 周平	国際リンパ浮腫治療センター	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
スーパーマイクロ手術とバイオ3Dプリンティングによる、ハイブリッドリンパ浮腫治療	吉田 周平	国際リンパ浮腫治療センター	50,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血圧カフを用いた無侵襲・低コストの輸液反応性モニターの開発	中村 隆治	手術部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
敗血症性脳症の発症メカニズム解明および新たな治療法確立	細川 康二	集中治療部	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
食道扁平上皮癌におけるエクソソーム解析を用いた化学放射線療法耐性メカニズムの解析	古川 高意	原爆放射線医科学研究所	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
DNA二重鎖切断応答シグナルに応じた神経病態の決定機構の解明	宮本 達雄	原爆放射線医科学研究所	5,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
幹細胞制御分子Lgr4によるCML幹細胞の抗がん剤抵抗性機構の解明	仲 一仁	原爆放射線医科学研究所	4,700,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
骨miRNAを標的とした癌の骨転移抑制の試み	南崎 朋子	大学院医歯薬保健学研究科硬組織代謝生物学	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
成熟骨芽細胞の活性化と骨再生能力の検討	沖田 紗季	大学院医歯薬保健学研究科歯科矯正学	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体ストレスによる肥満形成のエピジェネティックによる制御機構解明と創薬	小澤 孝一郎	大学院医歯薬保健学研究科治療薬効学	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体ストレス検知システムによる新規難病発症予測法の開発	細井 徹	大学院医歯薬保健学研究科治療薬効学	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
生体内因子・細胞間相互作用を介した小胞体ストレスと生活習慣病形成機構解明と創薬	細井 徹	大学院医歯薬保健学研究科治療薬効学	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
微小重力環境で培養した間葉系幹細胞による脊髄再生治療の開発と作用機序の解明	弓削 類	大学院医歯薬保健学研究科生体環境適応科学	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
硬組織の連結を司る細胞群の蛍光イメージングと分子生物学的特性の解明	宿南 知佐	大学院医歯薬保健学研究科生体分子機能学	5,800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
DNAメチル化を指標としたアジア系の年齢推定法の開発と展開	岡 広子	大学院医歯薬保健学研究科附属死因究明教育研究センター	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
6年制薬学教育および薬学部新設は薬剤師分布を改善したかー人口地理指標からの分析ー	鹿嶋 小緒里	大学院医歯薬保健学研究科公衆衛生学	200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ウイルス感染は筋萎縮性側索硬化症(ALS)の発症に関与するか？	富士 雅也	大学院医歯薬保健学研究科ウイルス学	1,050,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
メトトレキサート誘発性肺障害に対する葉酸の有用性の再評価と経肺投与法への応用展開	川見 昌史	大学院医歯薬保健学研究科医療薬理学	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
行動・視線・自律神経反応から捉える携帯電話使用時の母子相互作用の可視化	大平 光子	大学院医歯薬保健学研究科助産・母性看護開発学	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
不育症夫婦におけるパートナーシップ構築への看護援助モデルの開発	大平 光子	大学院医歯薬保健学研究科助産・母性看護開発学	100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

妊娠葛藤に直面した女性の意思決定を支えるケアガイドラインの開発	上野 陽子	大学院医歯薬保健学研究科助産・母性看護開発学	416,473	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞体ストレスが関わる難治性神経疾患の克服を目指した膜輸送活性化薬物の検索と応用	酒井 規雄	大学院医歯薬保健学研究科神経薬理学	4,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
恒常的活性化型受容体GPR3のシナプス形成への影響と新規神経回路再生療法への応用	田中 茂	大学院医歯薬保健学研究科神経薬理学	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
人工知能を活用した遠隔セルフマネジメント教育・支援システムの構築と効果の検証	加澤 佳奈	大学院医歯薬保健学研究科成人看護開発学	2,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Increasing awareness, health literacy, and behavior changes by addressing and managing health issues of climate and lifestyle changes in a developing country focusing on hypertension	森山 美知子	大学院医歯薬保健学研究科成人看護開発学	6,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
高額医療の利用につながる後期高齢者の健診を用いた効果的抽出と予防的介入の構築	森山 美知子	大学院医歯薬保健学研究科成人看護開発学	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
看護学生に効果的な学習方法を支援するための教育アプローチの構築	二井谷 真由美	大学院医歯薬保健学研究科成人健康学	450,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
地域居住高齢者の睡眠適正化をもたらす運動介入による身体機能とQOLを高める研究	新小田 幸一	大学院医歯薬保健学研究科生体運動・動作解析学	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
あるがままの無拘束歩行運動時にみられる大脳皮質脳活動を可視化する	松川 寛二	大学院医歯薬保健学研究科生理機能情報科学	800,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
快感情調整による認知機能向上効果の解明ー顔面皮膚血流計測を用いて	遠藤 加菜	大学院医歯薬保健学研究科生理機能情報科学	2,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
細胞融合抑制タンパク:サブリンのノックアウトマウス作製	杉本 潤	大学院医歯薬保健学研究科産科婦人科学	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発	宮下 美香	大学院医歯薬保健学研究科老年・がん看護開発学	400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
高齢乳がん患者における化学療法もしくは内分泌療法に関連した認知機能障害の縦断調査	宮下 美香	大学院医歯薬保健学研究科老年・がん看護開発学	500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
チェアスキーのためのバリアフリーデザインをどのように進めるか	浦邊 幸夫	大学院医歯薬保健学研究科スポーツリハビリ学	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小頭症および大頭症の病態メカニズムの解明と治療法の探索	伊藤 日加瑠	大学院医歯薬保健学研究科神経生物学	1,009,624	補委	文部科学省科学研究費補助金
ラクトフェリンの抗破骨細胞形成部位の決定と骨破壊性病変に対するペプチド医薬の開発	高田 隆	理事・副学長, 口腔顎顔面病理病態学	3,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計16件
計341件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirata Y, Kanno K, Kishikawa N 他	総合内科・総合診療科	Primary Signet Ring Cell Carcinoma of Rectum Diagnosed by Boring Biopsy in Combination with Endoscopic Mucosal Resection	CASE REPORTS IN MEDICINE. 2018;0:-	Original Article
2	Kimura K, Mizooka M, Tazuma S 他	総合内科・総合診療科	Five Cases of Familial Mediterranean Fever in Japan: The Relationship with MEFV Mutations	INTERNAL MEDICINE. 2018; 57(16):2425-2429	Original Article
3	Tazuma S, Serikawa M	総合内科・総合診療科	Clinical guidelines for primary sclerosing cholangitis 2017	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2018SEP;53(9):1006-1034	Review
4	Kobayashi T, Kanno K, Kikuchi Y 他	総合内科・総合診療科	An Atypical Case of Non-asthmatic Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis Finally Diagnosed by Tissue Biopsy	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(6):871-875	Original Article
5	Kawahara A, Morioka T, Otani Y 他	総合内科・総合診療科	Successful Treatment of Acute Chest Syndrome with Manual Exchange Transfusion in a Patient with Sickle Beta(+)-thalassemia	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(11):1629-1634	Original Article
6	Ikawa F, Abiko M, Ishii D 他	脳神経外科	Analysis of outcome at discharge after aneurysmal subarachnoid hemorrhage in Japan according to the Japanese stroke databank	NEUROSURGICAL REVIEW. 2018APR;41(2):567-574	Original Article
7	Saito T, Sugiyama K, Hama S 他	脳神経外科	Prognostic importance of temozolomide-induced neutropenia in glioblastoma, IDH-wildtype patients	NEUROSURGICAL REVIEW. 2018APR;41(2):621-628	Original Article
8	Takayasu T, Yamasaki F, Akiyama Y 他	脳神経外科	Advantages of high b-value diffusion-weighted imaging for preoperative differential diagnosis between embryonal and ependymal tumors at 3 T MRI	EUROPEAN JOURNAL OF RADIOLOGY. 2018APR; 101(1):136-143	Original Article
9	Yamasaki F, Kinoshita Y, Takayasu T 他	脳神経外科	Proton Magnetic Resonance Spectroscopy Detection of High Lipid Levels and Low Apparent Diffusion Coefficient Is Characteristic of Germinomas	WORLD NEUROSURGERY. 2018APR;112(1):E84-E94	Original Article
10	Ishii D, Kurisu K	脳神経外科	One year Rat Study of iBTA-induced "Microbiotube" Microvascular Grafts With an Ultra-Small Diameter of 0.6 mm	EUROPEAN JOURNAL OF VASCULAR AND ENDOVASCULAR SURGERY. 2018JUN;55(6):882-887	Original Article

計10件

11	Kinoshita Y, Kurisu K	脳神経外科	Nonfunctioning pituitary adenomas in elderly patients	JOURNAL OF CLINICAL NEUROSCIENCE. 2018JUL; 53():127-131	Original Article
12	Matsushige T	脳神経外科	Visualization and Classification of Deeply Seated Collateral Networks in Moyamoya Angiopathy with 7T MRI	AMERICAN JOURNAL OF NEURORADIOLOGY. 2018JUL;39(7):1248-1254	Original Article
13	Matsushige T, Sakamoto S, Ishii D 他	脳神経外科	Safety and efficacy of a new outreach distal access catheter, TACTICS, for coil embolization of unruptured intracranial aneurysms	INTERVENTIONAL NEURORADIOLOGY. 2018OCT;24(5):-	Original Article
14	Ikawa F, Abiko M, Ishii D 他	脳神経外科	Effect of actual age on outcome at discharge in patients by surgical clipping and endovascular coiling for ruptured cerebral aneurysm in Japan	NEUROSURGICAL REVIEW. 2018OCT;41(4):1007-1011	Original Article
15	Ikawa F, Abiko M	脳神経外科	Factors Related to Frailty Associated with Clinical Deterioration After Meningioma Surgery in the Elderly	WORLD NEUROSURGERY. 2018NOV;119():E167-E173	Original Article
16	Hosogai M, Matsushige T, Shimonaga K 他	脳神経外科	Stent-Assisted Coil Embolization for Ruptured Intracranial Dissecting Aneurysms Involving Essential Vessels	WORLD NEUROSURGERY. 2018NOV;119():E728-E733	Original Article
17	Ishii D, Okazaki T, Matsushige T 他	脳神経外科	Chronic Dilatation of Superficial Temporal Artery and Middle Meningeal Artery Associated with Development of Collateral Circulation After Bypass Surgery for Moyamoya Angiopathy	WORLD NEUROSURGERY. 2018NOV;119():E864-E873	Original Article
18	Onishi S, Takayasu T, Kolakshyapati M 他	脳神経外科	Perfusion Computed Tomography Parameters Are Useful for Differentiating Glioblastoma, Lymphoma, and Metastasis	WORLD NEUROSURGERY. 2018NOV;119():E890-E897	Original Article
19	Ishii D, Matsushige T, Okazaki T 他	脳神経外科	Marked Changes in Blood-Brain Barrier Biomarkers After Direct Bypass Surgery for Moyamoya Angiopathy: Preliminary Study	WORLD NEUROSURGERY. 2018DEC;120():E611-E616	Original Article
20	Shimonaga K, Matsushige T, Ishii D 他	脳神経外科	Clinicopathological Insights From Vessel Wall Imaging of Unruptured Intracranial Aneurysms	STROKE. 2018OCT;49(10):2516-2519	Original Article

計10件

21	Okazaki T, Sakamoto S, Shinagawa K 他	脳神経外科	Detection of in-stent protrusion (ISP) by intravascular ultrasound during carotid stenting: Usefulness of stent-in-stent placement for ISP	EUROPEAN RADIOLOGY. 2019JAN;29(1):77-84	Original Article
22	Onishi S, Sakamoto S, Kurisu K 他	脳神経外科	Endovascular Coil Embolization with Low-Profile Visualized Intraluminal Support Junior Stent for Ruptured Dissecting Aneurysm of Proximal Superior Cerebellar Artery-Case Report and Literature Review	WORLD NEUROSURGERY. 2019FEB;122(1):102-105	Review
23	Okazaki T, Sakamoto S, Ishii D 他	脳神経外科	A Pial Arteriovenous Fistula in Infancy as the Presenting Manifestation of Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia	WORLD NEUROSURGERY. 2019FEB;122(2):322-325	Original Article
24	Sakamoto S, Abiko M, Okazaki T 他	脳神経外科	Navigation of a 6-French guiding sheath into the common carotid artery using a tri-axial catheter system in transbrachial carotid artery stenting	INTERVENTIONAL NEURORADIOLOGY. 2019FEB;25(1):38-43	Original Article
25	Kinoshita Y, Yamasaki F, Usui S 他	脳神経外科	Physiologic pituitary hyperplasia causing visual disturbance during adolescence	JOURNAL OF CLINICAL NEUROSCIENCE. 2019MAR; 61(2):279-281	Original Article
26	Hosomi N, Aoki S, Nezu T 他	脳神経内科	Pravastatin Reduces the Risk of Atherothrombotic Stroke when Administered within Six Months of an Initial Stroke Event	JOURNAL OF ATHEROSCLEROSIS AND THROMBOSIS. 2018;25(3): 262-268	Original Article
27	Kitamura J, Ueno H, Nagai M 他	脳神経内科	Blood Pressure Variability in Acute Ischemic Stroke: Influence of Infarct Location in the Insular Cortex	EUROPEAN NEUROLOGY. 2018;79(1-2):90-99	Original Article
28	Hosomi N, Kitagawa K, Nagai Y 他	脳神経内科	Desirable Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels for Preventing Stroke Recurrence A Post Hoc Analysis of the J-STARS Study (Japan Statin Treatment Against Recurrent Stroke)	STROKE. 2018APR;49(4): 865-+	Original Article
29	Nezu T, Hosomi N, Aoki S 他	脳神経内科	Effects of Cilnidipine, an L/N-Type Calcium Channel Blocker, on Carotid Atherosclerosis in Japanese Post-Stroke Hypertensive Patients: Results from the CA-ATTEND Study	JOURNAL OF ATHEROSCLEROSIS AND THROMBOSIS. 2018;25(6): 490-504	Original Article
30	Naito H, Nezu T, Hosomi N 他	脳神経内科	Antithrombotic Therapy Strategy for Cancer-Associated Ischemic Stroke: A Case Series of 26 Patients	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES. 2018SEP;27(9): E206-E211	Original Article

計10件

31	Naito H, Nezu T, Hosomi N 他	脳神経内科	Controlling nutritional status score for predicting 3-mo functional outcome in acute ischemic stroke	NUTRITION. 2018NOV-DEC; 55-56():1-6	Original Article
32	Kinoshita N, Hosomi N, Matsushima H 他	脳神経内科	Screening for Fabry Disease in Japanese Patients with Young-Onset Stroke by Measuring alpha-Galactosidase A and Globotriaosylsphingosine	JOURNAL OF STROKE & CEREBROVASCULAR DISEASES. 2018DEC;27(12); 3563-3569	Original Article
33	Shishido T, Nagano Y, Araki M 他	脳神経内科	Synphilin-1 has neuroprotective effects on MPP+-induced Parkinson's disease model cells by inhibiting ROS production and apoptosis	NEUROSCIENCE LETTERS. 2019JAN 18;690():145-150	Original Article
34	Ueno H, Kamimura T, Mihara K 他	脳神経内科	Metastatic Malignant Lymphoma Mimicking Cerebral Toxoplasmosis with the "Target Sign"	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(8):1157-1162	Original Article
35	Yoshino A, Okamoto Y, Okada G 他	精神科	Changes in resting-state brain networks after cognitive-behavioral therapy for chronic pain	PSYCHOLOGICAL MEDICINE. 2018MAY;48(7); 1148-1156	Original Article
36	Mori A, Okamoto Y, Okada G 他	精神科	Effects of behavioural activation on the neural circuit related to intrinsic motivation	BJPSYCH OPEN. 2018SEP; 4(5):317-323	Original Article
37	Takagaki K, Okamoto Y, Jinnin R 他	精神科	Effects of behavioral activation program without psychotropic medication treatment for depression in late adolescence: case report	NEUROPSYCHIATRIC DISEASE AND TREATMENT. 2018;14():2159-2164	Original Article
38	Takagaki K, Okamoto Y, Jinnin R 他	精神科	Enduring effects of a 5-week behavioral activation program for subthreshold depression among late adolescents: an exploratory randomized controlled trial	NEUROPSYCHIATRIC DISEASE AND TREATMENT. 2018;14():2633-2641	Original Article
39	Harada Y	眼科	Requirement of longer term antiviral therapy in patients with cytomegalovirus anterior uveitis with corneal endothelial cell damage	CLINICAL OPHTHALMOLOGY. 2018; 12():1311-1316	Original Article
40	Sueoka K, Chikama T, Latief MA 他	眼科	Time-dependent antimicrobial effect of photodynamic therapy with TONS 504 on Pseudomonas aeruginosa	LASERS IN MEDICAL SCIENCE. 2018SEP;33(7); 1455-1460	Original Article

計10件

41	Miyagi H	眼科	Modulation of human corneal stromal cell differentiation by hepatocyte growth factor and substratum compliance	EXPERIMENTAL EYE RESEARCH. 2018NOV;1760: 235-242	Original Article
42	Miyagi H, Murphy CJ, Thomasy SM 他	眼科	Topical Rho-Associated Kinase Inhibitor, Y27632, Accelerates Corneal Endothelial Regeneration in a Canine Cryoinjury Model	CORNEA. 2019MAR;38(3): 352-359	Original Article
43	Sueoka K, Chikama T, Pertiwi YD 他	眼科	Antifungal efficacy of photodynamic therapy with TONS 504 for pathogenic filamentous fungi	LASERS IN MEDICAL SCIENCE. 2019JUN;34(4): 743-747	Original Article
44	Hamamoto T, Kono T, Furuie H 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Extraskeletal osteosarcoma in the parotid gland: A case report	AURIS NASUS LARYNX. 2018JUN;45(3):644-647	Original Article
45	Sasaki A, Kunimoto M, Takeno S 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Influence of pneumococcal conjugate vaccines on acute otitis media in Japan	AURIS NASUS LARYNX. 2018AUG;45(4):718-721	Original Article
46	Ishino T, Ragae MA, Maruhashi T 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effects of Cerebral Blood Flow and Vessel Conditions on Speech Recognition in Patients With Postlingual Adult Cochlear Implant: Predictable Factors for the Efficacy of Cochlear Implant	EAR AND HEARING. 2018MAY-JUN;39(3):540-547	Original Article
47	Kono T, Ueda T, Takumida M 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Low-dose dexamethasone with fosaprepitant and palonosetron to prevent cisplatin-induced nausea and vomiting in head and neck cancer patients	ACTA OTO-LARYNGOLOGICA. 2018; 138(10):921-925	Original Article
48	Otsuki T, Nakashima T, Hattori N 他	呼吸器内科	Aminopeptidase N/CD13 as a potential therapeutic target in malignant pleural mesothelioma	EUROPEAN RESPIRATORY JOURNAL. 2018MAY 1;51(5):	Original Article
49	Hamaj K, Iwamoto H, Ohshimo S 他	呼吸器内科	Use of proton pump inhibitors is associated with increased mortality due to nosocomial pneumonia in bedridden patients receiving tube feeding	GERIATRICS & GERONTOLOGY INTERNATIONAL. 2018AUG; 18(8):1215-1218	Original Article
50	Miwata K, Nakashima T, Hattori N 他	呼吸器内科	Intratracheal Administration of siRNA Dry Powder Targeting Vascular Endothelial Growth Factor Inhibits Lung Tumor Growth in Mice	MOLECULAR THERAPY-NUCLEIC ACIDS. 2018SEP 7; 120:698-706	Original Article

計10件

51	Yamaguchi K, Masuda T, Fujitaka K 他	呼吸器内科	Bevacizumab with Single-agent Chemotherapy in Previously Treated Non-squamous Non-small-cell Lung Cancer: Phase II Study	IN VIVO. 2018SEP-OCT; 32(5):1155-1160	Original Article
52	Shioya S, Masuda T, Senoo T 他	呼吸器内科	Plasminogen activator inhibitor-1 serves an important role in radiation-induced pulmonary fibrosis	EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE. 2018OCT;16(4):3070-3076	Original Article
53	Masuda T, Watanabe M, Fujitaka K 他	呼吸器内科	Alternate-day administration of S-1 for elderly patients with advanced non-small-cell lung carcinoma: A prospective feasibility study	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY. 2018NOV;9(5):539-544	Original Article
54	Yamaguchi K, Iwamoto H, Sakamoto S 他	呼吸器内科	Serial measurements of KL-6 for monitoring activity and recurrence of interstitial pneumonia with anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody A retrospective cohort study	MEDICINE. 2018DEC;97(49):	Original Article
55	Takao S, Masuda T, Yamaguchi K 他	呼吸器内科	High preoperative C-reactive protein level is a risk factor for acute exacerbation of interstitial lung disease after non-pulmonary surgery	MEDICINE. 2019FEB;98(5):-	Original Article
56	Nakao S, Masuda T, Sakamoto S 他	呼吸器内科	Cerebral embolism during edoxaban administration for venous thromboembolism in a patient with lung adenocarcinoma A case report	MEDICINE. 2019MAR;98(12):	Original Article
57	Miwata K, Masuda T, Yamaguchi K 他	呼吸器内科	Performance Status Is a Risk Factor for Depression before the Diagnosis of Lung Cancer Patients	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(7):915-920	Original Article
58	Shioya S, Masuda T, Yamaguchi K 他	呼吸器内科	Comparison of anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody-related and idiopathic non-specific interstitial pneumonia	RESPIRATORY MEDICINE. 2019JUN;152(4):44-50	Original Article
59	Tsubokawa N, Tsutani Y, Okada M 他	呼吸器外科	Segmentectomy Versus Lobectomy for Radiologically Pure Solid Clinical T1a-bN0M0 Lung Cancer	WORLD JOURNAL OF SURGERY. 2018AUG;42(8): 2493-2501	Original Article
60	Yoshiya T, Minae T, Okada M 他	呼吸器外科	The differences in histological changes among pulmonary vessels divided with an energy device	INTERACTIVE CARDIOVASCULAR AND THORACIC SURGERY. 2018SEP;27(3):372-378	Original Article

計10件

61	Tsutani Y, Okada M	呼吸器外科	Bronchoplasties at the Segmental Level	THORACIC SURGERY CLINICS. 2018AUG;28(3):299-+	Original Article
62	Tsutani Y, Miyata Y, Okada M 他	呼吸器外科	Multicenter phase II study on cisplatin, pemetrexed, and bevacizumab followed by maintenance with pemetrexed and bevacizumab for patients with advanced or recurrent nonsquamous non-small cell lung cancer: MAP study	BMC CANCER. 2018DEC 10;180:-	Original Article
63	Kai Y, Tsutani Y, Okada M 他	呼吸器外科	Metachronous Lung Cancer After Pleurectomy/Decortication	ANNALS OF THORACIC SURGERY. 2019JAN;107(1):E1-E3	Original Article
64	Kai Y, Tsutani Y, Okada M 他	呼吸器外科	Prolonged post-recurrence survival following pleurectomy/decortication for malignant pleural mesothelioma	ONCOLOGY LETTERS. 2019MAR;17(3):3607-3614	Original Article
65	Ito M, Miyata Y, Okada M 他	呼吸器外科	Management pathways for solitary pulmonary nodules	JOURNAL OF THORACIC DISEASE. 2018APR;100:S860-S866	Review
66	Ito M, Miyata Y, Okada M 他	呼吸器外科	Increased risk of recurrence in resected EGFR-positive pN0M0 invasive lung adenocarcinoma	THORACIC CANCER. 2018DEC;9(12):1594-1602	Original Article
67	Fukuda Y, Tomomori S, Matsumura H 他	循環器内科	In Paroxysmal Atrial Fibrillation Patients, the Neutrophil-to-lymphocyte Ratio Is Related to Thrombogenesis and More Closely Associated with Left Atrial Appendage Contraction than with the Left Atrial Body Function	INTERNAL MEDICINE. 2018;57(5):633-640	Original Article
68	Kitagawa T, Yamamoto H, Hattori T 他	循環器内科	Tumor Necrosis Factor- α Gene Expression in Epicardial Adipose Tissue is Related to Coronary Atherosclerosis Assessed by Computed Tomography	JOURNAL OF ATHEROSCLEROSIS AND THROMBOSIS. 2018;25(3):269-280	Original Article
69	Sairaku A, Nakano Y, Oda N 他	循環器内科	Head-to-head comparison of the heart rate variability between the bisoprolol transdermal patch and bisoprolol fumarate tablet	CARDIOVASCULAR THERAPEUTICS. 2018JUN;36(3):-	Original Article
70	Kurisu S, Nitta K, Sumimoto Y 他	循環器内科	Effects of aortic tortuosity on left ventricular diastolic parameters derived from gated myocardial perfusion single photon emission computed tomography in patients with normal myocardial perfusion	HEART AND VESSELS. 2018JUN;33(6):651-656	Original Article

計10件

71	Harima A, Sairaku A, Inoue I 他	循環器内科	Real-life experience of a stent-less revascularization strategy using a combination of excimer laser and drug-coated balloon for patients with acute coronary syndrome	JOURNAL OF INTERVENTIONAL CARDIOLOGY. 2018JUN; 31(3):284-292	Original Article
72	Maruhashi T, Kihara Y, Higashi Y 他	循環器内科	Assessment of endothelium-independent vasodilation: from methodology to clinical perspectives	JOURNAL OF HYPERTENSION. 2018JUL; 36(7):1460-1467	Review
73	Sumimoto Y, Kurisu S, Hitta K 他	循環器内科	Effect of fibrillatory wave amplitude on coronary blood flow as assessed by thrombolysis in myocardial infarction frame count in patients with atrial fibrillation	HEART AND VESSELS. 2018JUL;33(7):786-792	Original Article
74	Kurisu S, Nitta K, Sumimoto Y 他	循環器内科	Effects of atrial fibrillation on myocardial washout rate of thallium-201 on myocardial perfusion single-photon emission computed tomography	NUCLEAR MEDICINE COMMUNICATIONS. 2018JUL;39(7):597-600	Original Article
75	Kurisu S, Nitta K, Sumimoto Y 他	循環器内科	Implications of electrocardiographic frontal QRS axis on left ventricular diastolic parameters derived from electrocardiogram-gated myocardial perfusion single photon emission computed tomography	ANNALS OF NUCLEAR MEDICINE. 2018JUL;32(6):404-409	Original Article
76	Senoo A, Kitagawa T, Yamamoto H 他	循環器内科	Association between histological features of epicardial adipose tissue and coronary plaque characteristics on computed tomography angiography	HEART AND VESSELS. 2018AUG;33(8):827-836	Original Article
77	Yamamoto H, Kitagawa T, Kunita E 他	循環器内科	Impact of the Coronary Artery Calcium Score on Mid- to Long-Term Cardiovascular Mortality and Morbidity Measured With Coronary Computed Tomography Angiography	CIRCULATION JOURNAL. 2018SEP;82(9):2342-+	Original Article
78	Kurisu S, Sumimoto Y, Ikenaga H 他	循環器内科	Association of QRS duration with left ventricular volume and ejection fraction after anterior myocardial infarction assessed by gated single photon emission computed tomography	ACTA CARDIOLOGICA. 2018;73(4):371-376	Original Article
79	Tomomori S, Nakano Y, Ochi H 他	循環器内科	Maintenance of low inflammation level by the ZFHX3 SNP rs2106261 minor allele contributes to reduced atrial fibrillation recurrence after pulmonary vein isolation	PLOS ONE. 2018SEP 4;13(9):	Original Article
80	Utsunomiya H, Hidaka T, Susawa H 他	循環器内科	Exercise-Stress Echocardiography and Effort Intolerance in Asymptomatic/Minimally Symptomatic Patients With Degenerative Mitral Regurgitation Combined Invasive-Noninvasive Hemodynamic Monitoring	CIRCULATION-CARDIOVASCULAR IMAGING. 2018SEP;11(9):-	Original Article

計10件

81	Okubo Y, Sairaku A, Kihara Y 他	循環器内科	Increased Urinary Liver-Type Fatty Acid-Binding Protein Level Predicts Worsening Renal Function in Patients With Acute Heart Failure	JOURNAL OF CARDIAC FAILURE. 2018AUG;24(8):520-524	Original Article
82	Kurisu S, Nitta K, Sumimoto Y 他	循環器内科	Frontal QRS-T angle and World Health Organization classification for body mass index	INTERNATIONAL JOURNAL OF CARDIOLOGY. 2018DEC 1;272(1):185-188	Original Article
83	Yamamoto H, Kihara Y, Kitagawa T 他	循環器内科	Coronary plaque characteristics in computed tomography and 2-year outcomes: The PREDICT study	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR COMPUTED TOMOGRAPHY. 2018SEP-OCT;12(5):436-443	Original Article
84	Nakano Y, Ochi H, Sairaku A 他	循環器内科	HCN4 Gene Polymorphisms Are Associated With Occurrence of Tachycardia-Induced Cardiomyopathy in Patients With Atrial Fibrillation	CIRCULATION-GENOMIC AND PRECISION MEDICINE. 2018JUL;11(7):-	Original Article
85	Maruhashi T, Kihara Y, Higashi Y 他	循環器内科	Hyperuricemia and endothelial function: From molecular background to clinical perspectives	ATHEROSCLEROSIS. 2018NOV;278(1):226-231	Review
86	Maruhashi T, Soga J, Fujimura N 他	循環器内科	Endothelial Dysfunction, Increased Arterial Stiffness, and Cardiovascular Risk Prediction in Patients With Coronary Artery Disease: FMD-J (Flow-Mediated Dilation Japan) Study A	JOURNAL OF THE AMERICAN HEART ASSOCIATION. 2018JUL 17;7(14):-	Original Article
87	Kitagawa T, Yamamoto H, Nakamoto Y 他	循環器内科	Predictive Value of F-18-Sodium Fluoride Positron Emission Tomography in Detecting High-Risk Coronary Artery Disease in Combination With Computed Tomography	JOURNAL OF THE AMERICAN HEART ASSOCIATION. 2018OCT 16;7(20):-	Original Article
88	Amioka M, Nakano Y, Onohara Y 他	循環器内科	Ser96Ala genetic variant of the human histidine-rich calcium-binding protein is a genetic predictor of recurrence after catheter ablation in patients with paroxysmal atrial fibrillation	PLOS ONE. 2019MAR 6;14(3):-	Original Article
89	Hidaka T, Harada Y, Susawa H 他	循環器内科	Early mitral inflow velocity to left ventricular global strain ratio predicts limited exercise capacity	ECHOCARDIOGRAPHY-A JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ULTRASOUND AND ALLIED TECHNIQUES. 2019MAR;36(3):503-511	Original Article
90	Kurisu S, Nitta K, Sumimoto Y 他	循環器内科	Myocardial perfusion defect assessed by single-photon emission computed tomography and frontal QRS-T angle in patients with prior anterior myocardial infarction	HEART AND VESSELS. 2019JUN;34(6):971-975	Original Article

計10件

91	Sueda T, Takahashi S	心臓血管外科	Spinal cord injury as a complication of thoracic endovascular aneurysm repair	SURGERY TODAY. 2018MAY;48(5):473-477	Review
92	Sueda T, Takahashi S, Katayama K 他	心臓血管外科	The long-term outcomes of partial arch repair using the frozen elephant trunk technique for distal arch aortic aneurysm	SURGERY TODAY. 2018DEC;48(12):1035-1039	Original Article
93	Takahashi S, Nakagawa K, Tomiyasu M 他	心臓血管外科	Mesenchymal Stem Cell-Based Therapy Improves Lower Limb Movement After Spinal Cord Ischemia in Rats	ANNALS OF THORACIC SURGERY. 2018MAY;105(5):1523-1530	Original Article
94	Watanabe M, Takahashi S, Yamaoka H 他	心臓血管外科	Comparison of Transcatheter vs. Transfemoral Transcatheter Aortic Valve Implantation	CIRCULATION JOURNAL. 2018OCT;82(10):2518-2522	Original Article
95	Yamauchi M, Urabe Y, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Serial profiling of circulating tumor DNA for optimization of anti-VEGF chemotherapy in metastatic colorectal cancer patients	INTERNATIONAL JOURNAL OF CANCER. 2018APR 1; 142(7):1418-1426	Article
96	Otani I, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Clinical significance of small-bowel villous edema in patients with liver cirrhosis: A capsule endoscopy study	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY. 2018APR; 33(4):825-830	Original Article
97	Chayama K, Kawakami Y	消化器・代謝内科	Efficacy and safety of glecaprevir/pibrentasvir in Japanese patients with chronic genotype 1 hepatitis C virus infection with and without cirrhosis	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2018APR;53(4):557-565	Original Article
98	Kodama K, Kawaoka T, Aikata H 他	消化器・代謝内科	Comparison of Outcome of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy Combined with Radiotherapy and Sorafenib for Advanced Hepatocellular Carcinoma Patients with Major Portal Vein Tumor Thrombosis	ONCOLOGY. 2018;94(4): 215-222	Original Article
99	Teraoka Y, Uchida T, Imamura M 他	消化器・代謝内科	Prevalence of NS5A resistance associated variants in NS5A inhibitor treatment failures and an effective treatment for NS5A-P32 deleted hepatitis C virus in humanized mice	BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS. 2018JUN 2;500(2):152-157	Original Article
100	Hatooka M, Kawaoka T, Aikata H 他	消化器・代謝内科	Hepatic arterial infusion chemotherapy followed by sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma (HICS 55): an open label, non-comparative, phase II trial	BMC CANCER. 2018JUN 4; 18(0):-	Original Article

計10件

101	Kotachi T, Ito M, Boda T 他	消化器・代謝内科	Clinical Significance of Reddish Depressed Lesions Observed in the Gastric Mucosa after Helicobacter pylori Eradication	DIGESTION. 2018;98(1):48-55	Original Article
102	Yamashita K, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Use of anticoagulants increases risk of bleeding after colorectal endoscopic submucosal dissection	ENDOSCOPY INTERNATIONAL OPEN. 2018JUL;6(7):E857-E864	Original Article
103	Teraoka Y, Uchida T, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Limitations of daclatasvir/asunaprevir plus beclabuvir treatment in cases of NS5A inhibitor treatment failure	JOURNAL OF GENERAL VIROLOGY. 2018AUG;99(8):1058-1065	Original Article
104	Boda K, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Short-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for superficial cecal tumors: a comparison between extension and nonextension into the appendiceal orifice	THERAPEUTIC ADVANCES IN GASTROENTEROLOGY. 2018MAY 1;110:-	Original Article
105	Kunihara S, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Management of occult obscure gastrointestinal bleeding patients based on long-term outcomes	THERAPEUTIC ADVANCES IN GASTROENTEROLOGY. 2018JUL 16;110:-	Original Article
106	Uchikawa S, Kawaoka T, Aikata H 他	消化器・代謝内科	Clinical outcomes of sorafenib treatment failure for advanced hepatocellular carcinoma and candidates for regorafenib treatment in real-world practice	HEPATOLOGY RESEARCH. 2018SEP;48(10):814-820	Original Article
107	Kodama K, Kawaoka T, Aikata H 他	消化器・代謝内科	Comparison of clinical outcome of hepatic arterial infusion chemotherapy and sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma according to macrovascular invasion and transcatheter arterial chemoembolization refractory status	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AND HEPATOLOGY. 2018OCT; 33(10):1780-1786	Original Article
108	Morio K, Imamura M, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Advanced liver fibrosis effects on the response to sofosbuvir-based antiviral therapies for chronic hepatitis C	JOURNAL OF MEDICAL VIROLOGY. 2018DEC; 90(12):1834-1840	Original Article
109	Uchikawa S, Kawaoka T, Aikata H 他	消化器・代謝内科	Early experience of seven hepatocellular carcinoma cases treated with regorafenib	CLINICAL CASE REPORTS. 2018NOV;6(11):2217-2223	Original Article
110	Nomura M, Tsuge M, Chayama K 他	消化器・代謝内科	CTL-associated and NK cell-associated immune responses induce different HBV DNA reduction patterns in chronic hepatitis B patients	JOURNAL OF VIRAL HEPATITIS. 2018DEC; 25(12):1555-1564	Original Article

計10件

111	Tsuge M, Hiraga N, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Endoplasmic reticulum-mediated induction of interleukin-8 occurs by hepatitis B virus infection and contributes to suppression of interferon responsiveness in human hepatocytes	VIROLOGY. 2018DEC;525(2):48-61	Original Article
112	Kawaoka T, Aikata H, Kobayashi T 他	消化器・代謝内科	Comparison of hepatic arterial infusion chemotherapy between 5-fluorouracil-based continuous infusion chemotherapy and low-dose cisplatin monotherapy for advanced hepatocellular carcinoma	HEPATOLOGY RESEARCH. 2018DEC;48(13):1118-1130	Original Article
113	Kurihara M, Tsuge M, Chayama K 他	消化器・代謝内科	The association between serum cytokine and chemokine levels and antiviral response by entecavir treatment in chronic hepatitis B patients	ANTIVIRAL THERAPY. 2018;23(3):239-248	Original Article
114	Tanaka H, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Dual Red Imaging Maintains Clear Visibility During Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection	DIGESTIVE DISEASES AND SCIENCES. 2019JAN;64(1):224-231	Original Article
115	Hata K, Ito M, Boda T 他	消化器・代謝内科	Gastric Cancer with Submucosal Invasion after Successful Helicobacter pylori Eradication: A Propensity Score-Matched Analysis of Patients with Annual Patient Endoscopic Survey	DIGESTION. 2019;99(1):59-65	Original Article
116	Tanaka H, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	The utility of a novel colonoscope with retroflexion for colorectal endoscopic submucosal dissection	ENDOSCOPY INTERNATIONAL OPEN. 2019FEB;7(2):E130-E137	Original Article
117	Osawa M, Imamura M, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Real-world efficacy of glecaprevir plus pibrentasvir for chronic hepatitis C patient with previous direct-acting antiviral therapy failures	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2019MAR;54(3):291-296	Original Article
118	Hiramatsu A, Aikata H, Uchikawa S 他	消化器・代謝内科	Levodopa Use Is Associated With Improvement in Sarcopenia in Patients With Liver Cirrhosis	HEPATOLOGY COMMUNICATIONS. 2019MAR;3(3):348-355	Original Article
119	Tatsukawa Y, Tsuge M, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Reduction of hepatitis B surface antigen in sequential versus add-on pegylated interferon to nucleoside/nucleotide analogue therapy in HBe-antigen-negative chronic hepatitis B patients: a pilot study	ANTIVIRAL THERAPY. 2018;23(8):639-646	Original Article
120	Yamashita K, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Long-term prognosis after treatment for T1 carcinoma of laterally spreading tumors: a multicenter retrospective study	INTERNATIONAL JOURNAL OF COLORECTAL DISEASE. 2019MAR;34(3):481-490	Original Article

計10件

121	Tsuge M, Uchida T, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Early Multiphasic HBV Infection Initiation Kinetics Is Not Clone-Specific and Is Not Affected by Hepatitis D Virus (HDV) Infection	VIRUSES-BASEL. 2019MAR 15;11(3):-	Original Article
122	Tsuboi A, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	The Clinical Usefulness of the PillCam Progress Indicator for Route Selection in Double Balloon Endoscopy	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(10):1375-1381	Original Article
123	Tsuboi A, Oka S, Tanaka S 他	消化器・代謝内科	Experience with Balloon Dilatation in Crohn's and Non-Crohn's Benign Small-Bowel Strictures: Is There a Difference?	GASTROENTEROLOGY RESEARCH AND PRACTICE. 2019;0:-	Original Article
124	Ishii Y, Serikawa M, Chayama K 他	消化器・代謝内科	Impact of sclerosing dacryoadenitis/sialadenitis on relapse during steroid therapy in patients with type 1 autoimmune pancreatitis	SCANDINAVIAN JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2019FEB 1;54(2):259-264	Original Article
125	Toyota K, Murakami Y, Kondo N 他	消化器外科	Cytoplasmic Hu-Antigen R (HuR) Expression is Associated with Poor Survival in Patients with Surgically Resected Cholangiocarcinoma Treated with Adjuvant Gemcitabine-Based Chemotherapy	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY. 2018MAY; 25(5):1202-1210	Original Article
126	Shimajiri H, Egi H, Yamamoto M 他	消化器外科	Laparoscopic management of refractory chylous ascites using fluorescence navigation with indocyanine green: A case report	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;490:149-152	Original Article
127	Misumi T, Tanabe K, Fujikuni N 他	消化器外科	Stimulation of natural killer cells with rhCD137 ligand enhances tumor-targeting antibody efficacy in gastric cancer	PLOS ONE. 2018OCT 15; 13(10):-	Original Article
128	Abe T, Tanaka Y, Ohdan H 他	消化器外科	Signal regulatory protein alpha blockade potentiates tumoricidal effects of macrophages on gastrointestinal neoplastic cells in syngeneic immunocompetent mice	ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY. 2018NOV;2(6): 451-462	Original Article
129	Sato K, Ohdan H	消化器外科	Sessile serrated adenoma/polyp leading to acute appendicitis with multiple pyogenic liver abscesses: A case report	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;420:38-43	Original Article
130	Yamamoto M, Tahara H, Hamaoka M 他	消化器外科	Utility of hepatobiliary scintigraphy for recurrent reflux cholangitis following choledochojunostomy: A case report	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;420:104-108	Original Article

計10件

131	Sato K, Kuroda S, Kobayashi T 他	消化器外科	A case report on the successful perioperative management of hepatectomy for hepatocellular carcinoma in a patient with von Willebrand disease	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;440:131-134	Original Article
132	Hamai Y, Hihara J, Emi M 他	消化器外科	Evaluation of Prognostic Factors for Esophageal Squamous Cell Carcinoma Treated with Neoadjuvant Chemoradiotherapy Followed by Surgery	WORLD JOURNAL OF SURGERY. 2018MAY;42(5):1496-1505	Original Article
133	Hamai Y, Hihara J, Emi M 他	消化器外科	Treatment Outcomes and Prognostic Factors After Recurrence of Esophageal Squamous Cell carcinoma	WORLD JOURNAL OF SURGERY. 2018JUL;42(7):2190-2198	Original Article
134	Kochi M, Hinoi T, Niitsu H 他	消化器外科	Risk factors for postoperative pneumonia in elderly patients with colorectal cancer: a sub-analysis of a large, multicenter, case-control study in Japan	SURGERY TODAY. 2018AUG;48(8):756-764	Original Article
135	Hamai Y, Hihara J, Emi M 他	消化器外科	Preoperative prediction of a pathologic complete response of esophageal squamous cell carcinoma to neoadjuvant chemoradiotherapy	SURGERY. 2018JUL;164(1):40-48	Original Article
136	Yamamoto M, Egi H, Kochi M 他	消化器外科	Left colic artery-preserving D3 lymphadenectomy using near-infrared spectroscopy was effective for double advanced cancers of the transverse colon and rectum: A case report	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;490:131-135	Original Article
137	Sato K, Ohdan H	消化器外科	Afferent loop obstruction with obstructive jaundice and ileus due to an enterolith after distal gastrectomy: A case report	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;500:9-12	Original Article
138	Yoshinaka H, Tanabe K, Hotta R 他	消化器外科	Revascularization for cavernous transformation radical lymphadenectomy in the treatment of gastric cancer: A case report	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;500:84-87	Original Article
139	Hirata F, Ishiyama K, Tanaka Y 他	消化器外科	Effect of bevacizumab plus XELOX (CapeOX) chemotherapy on liver natural killer cell activity in colorectal cancer with resectable liver metastasis	ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY. 2018SEP;2(5):383-393	Original Article
140	Saeki Y, Tanabe K, Yamamoto Y 他	消化器外科	Laparoscopic proximal gastrectomy with hinged double flap method using knotless barbed absorbable sutures: A case series	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;510:165-169	Original Article

計10件

141	Akabane S, Mukai S, Egi H 他	消化器外科	A case of ascending colon cancer accompanied with tumor thrombosis in the superior mesenteric vein treated with right hemicolectomy and greater saphenous vein grafting	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;510:358-363	Original Article
142	Kondo N, Murakami Y, Uemura K 他	消化器外科	Prognostic impact of postoperative complication after pancreatoduodenectomy for pancreatic adenocarcinoma stratified by the resectability status	JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY. 2018DEC 1; 118(7):1105-1114	Original Article
143	Furukawa T, Hamai Y, Hihara J 他	消化器外科	Impact of Interval Between Neoadjuvant Chemoradiation and Surgery Upon Morbidity and Survival of Patients with Squamous Cell Carcinoma of Thoracic Esophagus	ANTICANCER RESEARCH. 2018SEP; 38(9):5239-5245	Original Article
144	Sumi Y, Egi H, Hattori M 他	消化器外科	A prospective study of the safety and usefulness of a new miniature wide-angle camera: the "BirdView camera system"	SURGICAL ENDOSCOPY AND OTHER INTERVENTIONAL TECHNIQUES. 2019JAN; 33(1):199-205	Original Article
145	Egi H, Nakashima I, Hattori M 他	消化器外科	Surgical techniques for advanced transverse colon cancer using the pincer approach of the transverse mesocolon	SURGICAL ENDOSCOPY AND OTHER INTERVENTIONAL TECHNIQUES. 2019FEB; 33(2):639-643	Original Article
146	Saeki Y, Ishiyama K, Ishida N 他	消化器外科	Memory-like Liver Natural Killer Cells are Responsible for Islet Destruction in Secondary Islet Transplantation	SCIENTIFIC REPORTS. 2019JAN 31;90:-	Original Article
147	Shimada N, Ohge H, Yano R 他	消化器外科	Surgical Recurrence at Anastomotic Site After Bowel Resection in Crohn's Disease: Comparison of Kono-S and End-to-end Anastomosis	JOURNAL OF GASTROINTESTINAL SURGERY. 2019FEB; 23(2): 312-319	Original Article
148	Hamai Y, Emi M, Ibuki Y 他	消化器外科	Early Recurrence and Cancer Death After Trimodal Therapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	ANTICANCER RESEARCH. 2019MAR; 39(3):1433-1440	Original Article
149	Hamai Y, Emi M, Ibuki Y 他	消化器外科	Clinical Significance of F-18-Fluorodeoxyglucose-Positron Emission Tomography-Positive Lymph Nodes to Outcomes of Trimodal Therapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY. 2019JUN; 26(6): 1869-1878	Original Article
150	Okubo H, Nakatsu Y, Yamamotoya T 他	内分泌・糖尿病内科	Gut Microbiota as a Therapeutic Target for Metabolic Disorders	CURRENT MEDICINAL CHEMISTRY. 2018; 25(9): 984-1001	Review

計10件

151	Okubo H, Nakatsu Y, Yamamotoya T 他	内分泌・糖尿病内科	Roles of Gut-Derived Secretory Factors in the Pathogenesis of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease and Their Possible Clinical Applications	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES. 2018OCT;19(10):	Review
152	Baba R, Oki K, Kobuke K 他	内分泌・糖尿病内科	Measurement of midnight ACTH levels is useful for the evaluation of midnight cortisol levels	STEROIDS. 2018DEC;140(179-184	Original Article
153	Itcho K, Oki K, Kobuke K 他	内分泌・糖尿病内科	Angiotensin 1-7 suppresses angiotensin II mediated aldosterone production via JAK/STAT signaling inhibition	JOURNAL OF STEROID BIOCHEMISTRY AND MOLECULAR BIOLOGY. 2019JAN;185(137-141	Original Article
154	Yoshida Y, Oi K, Kuranobu T 他	リウマチ・膠原病科	IL-1 Enhances Wnt Signal by Inhibiting DKK1	INFLAMMATION. 2018OCT;41(5):1945-1954	Original Article
155	Oi K, Tokunaga T, Sugiyama E 他	リウマチ・膠原病科	Tumour necrosis factor alpha augments the inhibitory effects of CTLA-4-Ig on osteoclast generation from human monocytes via induction of CD80 expression	CLINICAL AND EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY. 2019JUN;196(3):392-402	Original Article
156	Sasada S, Masumoto N, Goda N 他	乳腺外科	Dedicated breast PET for detecting residual disease after neoadjuvant chemotherapy in operable breast cancer: A prospective cohort study	EJSO. 2018APR;44(4):444-448	Original Article
157	Handa Y, Tsutani Y, Hanaki H 他	乳腺外科	Reassessment of Right Middle Lobe Lung Cancer: Comparison of Segments 4 and 5 Tumors	ANNALS OF THORACIC SURGERY. 2018MAY;105(5):1543-1550	Original Article
158	Sasada S, Masumoto N, Kajitani K 他	乳腺外科	Portable impulse-radar detector for breast cancer: a pilot study	JOURNAL OF MEDICAL IMAGING. 2018APR;5(2):-	Original Article
159	Masumoto N, Kadoya T, Sasada S 他	乳腺外科	Intratumoral heterogeneity on dedicated breast positron emission tomography predicts malignancy grade of breast cancer	BREAST CANCER RESEARCH AND TREATMENT. 2018SEP;171(2):315-323	Original Article
160	Sasada S, Masumoto N, Goda N 他	乳腺外科	Which type of breast cancers is undetectable on ring-type dedicated breast PET?	CLINICAL IMAGING. 2018SEP-OCT;51(186-191	Original Article

計10件

161	Asano T, Okada S, Tsumura M 他	小児科	Enhanced AKT Phosphorylation of Circulating B Cells in Patients With Activated PI3K delta Syndrome	FRONTIERS IN IMMUNOLOGY. 2018APR 5; 90:-	Original Article
162	Ishikawa N, Tani H, Kobayashi Y 他	小児科	High Incidence of Renal Stones in Severely Disabled Children with Epilepsy Treated with Topiramate	NEUROPEDIATRICS. 2019JUN;50(3):160-163	Original Article
163	Tani H, Ishikawa N, Kobayashi Y 他	小児科	Anti-MOG antibody encephalitis mimicking neurological deterioration in a case of Rett syndrome with MECP2 mutation	BRAIN & DEVELOPMENT. 2018NOV;40(10):943-946	Original Article
164	Ichinohe T, Miyama T, Kawase T 他	血液内科	Next-Generation Immune Repertoire Sequencing as a Clue to Elucidate the Landscape of Immune Modulation by Host-Gut Microbiome Interactions	FRONTIERS IN IMMUNOLOGY. 2018APR 3; 90:-	Original Article
165	Yanase Y, Takahagi S, Hide M 他	皮膚科	Chronic spontaneous urticaria and the extrinsic coagulation system	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL. 2018APR; 67(2):191-194	Review
166	Hide M	皮膚科	Efficacy and safety of omalizumab for the treatment of refractory chronic spontaneous urticaria in Japanese patients: Subgroup analysis of the phase 3 POLARIS study	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL. 2018APR; 67(2):243-252	Original Article
167	Takahagi S, Tanaka-A, Hide M 他	皮膚科	Sweat allergy	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL. 2018OCT; 67(4):435-441	Review
168	Iwamoto K, Nümin TJ, Koch S 他	皮膚科	Langerhans and inflammatory dendritic epidermal cells in atopic dermatitis are tolerized toward TLR2 activation	ALLERGY. 2018NOV;73(11): 2205-2213	Original Article
169	Kanamoto M, Tsuchiya Y, Nakao Y 他	皮膚科	Structural instability of I kappa B kinase beta promotes autophagic degradation through enhancement of Keap1 binding	PLOS ONE. 2018NOV 30; 13(11):-	Original Article
170	Moriwaki M, Iwamoto K, Hide M 他	皮膚科	Staphylococcus aureus from atopic dermatitis skin accumulates in the lysosomes of keratinocytes with induction of IL-1 alpha secretion via TLR9	ALLERGY. 2019MAR;74(3): 560-571	Original Article

計10件

171	Hide M	皮膚科	Efficacy and safety of rupatadine in Japanese adult and adolescent patients with chronic spontaneous urticaria: A double-blind, randomized, multicenter, placebo-controlled clinical trial	ALLERGOLOGY INTERNATIONAL. 2019JAN; 68(1):59-67	Original Article
172	Kodama A, Adachi N	整形外科	Macroscopic investigation of failed Kudo type 5 total elbow arthroplasty	JOURNAL OF SHOULDER AND ELBOW SURGERY. 2018AUG;27(8):1380-1385	Original Article
173	Kubo T, Furuta T, Johan MP 他	整形外科	A meta-analysis supports core needle biopsy by radiologists for better histological diagnosis in soft tissue and bone sarcomas	MEDICINE. 2018JUL;97(29):	Review
174	Nakasa T, Ikuta Y, Sawa M 他	整形外科	Relationship Between Bone Marrow Lesions on MRI and Cartilage Degeneration in Osteochondral Lesions of the Talar Dome	FOOT & ANKLE INTERNATIONAL. 2018AUG; 39(8):908-915	Original Article
175	Shoji T, Yamasaki T, Izumi S 他	整形外科	The effect of cup medialization and lateralization on hip range of motion in total hip arthroplasty	CLINICAL BIOMECHANICS. 2018AUG;57(0):121-128	Original Article
176	Nakasa T, Ikuta Y, Sawa M 他	整形外科	Evaluation of Articular Cartilage Injury Using Computed Tomography With Axial Traction in the Ankle Joint	FOOT & ANKLE INTERNATIONAL. 2018SEP; 39(9):1120-1127	Original Article
177	Shoji T, Yamasaki T, Izumi S 他	整形外科	Evaluation of articular cartilage following rotational acetabular osteotomy for hip dysplasia using T2 mapping MRI	SKELETAL RADIOLOGY. 2018NOV;47(11):1467-1474	Original Article
178	Ishikawa M, Nakamae A, Nakasa T 他	整形外科	Limitation of in-situ arthroscopic fixation for stable juvenile osteochondritis dissecans in the knee	JOURNAL OF PEDIATRIC ORTHOPAEDICS-PART B. 2018NOV;27(6):516-521	Original Article
179	Kodama A, Sunagawa T, Nakashima Y 他	整形外科	Joint distraction and early mobilization using a new dynamic external finger fixator for the treatment of fracture-dislocations of the proximal interphalangeal joint	JOURNAL OF ORTHOPAEDIC SCIENCE. 2018NOV;23(6):959-966	Original Article
180	Ishikawa M, Kobayashi K, Adachi N 他	整形外科	Arthroscopic Fixation of Osteochondral Avulsion Fracture of the Femoral Attachment of the Posterior Cruciate Ligament in an 82-Year-Old Patient: A Case Report	GERIATRIC ORTHOPAEDIC SURGERY & REHABILITATION. 2018SEP 18;9(0):-	Original Article

計10件

181	Kubo T, Furuta T, Sakuda T 他	整形外科	Conventional Tc-99m-(hydroxy) methylene diphosphate remains useful to predict osteosarcoma response to neoadjuvant chemotherapy Individual patient data and aggregate data meta-analyses	MEDICINE. 2018DEC;97(51):-	Review
182	Yokoya S, Nakamura Y, Harada Y 他	整形外科	Outcomes of arthroscopic rotator cuff repair with muscle advancement for massive rotator cuff tears	JOURNAL OF SHOULDER AND ELBOW SURGERY. 2019MAR;28(3):445-452	Original Article
183	Nakasa T, Ikuta Y, Tsuyuguchi Y 他	整形外科	MRI Tracking of the Effect of Bioabsorbable Pins on Bone Marrow Edema After Fixation of the Osteochondral Fragment in the Talus	FOOT & ANKLE INTERNATIONAL. 2019MAR;40(3):323-329	Original Article
184	Izumi S, Adachi N	整形外科	Control of glucose metabolism is important in tenogenic differentiation of progenitors derived from human injured tendons	PLOS ONE. 2019MAR 18;14(3):-	Original Article
185	Nakanishi K	整形外科	Evidence that impaired motor conduction in the bilateral ulnar and tibial nerves underlies cervical spondylotic amyotrophy in patients with unilateral deltoid muscle atrophy	SPINE SURGERY AND RELATED RESEARCH. 2018;2(1):-	Original Article
186	Tanaka N, Nakanishi K, Kamei N 他	整形外科	Pathology and Treatment of Traumatic Cervical Spine Syndrome: Whiplash Injury	ADVANCES IN ORTHOPEDICS. 2018;0:-	Review
187	Tanaka N, Nakanishi K, Kamei N 他	整形外科	Novel Hybrid Hydroxyapatite Spacers Ensure Sufficient Bone Bonding in Cervical Laminoplasty	ASIAN SPINE JOURNAL. 2018DEC;12(6):1078-1084	Original Article
188	Kondo T, Yasuda T, Otsuki S 他	麻酔科	Genetic and functional analysis of the RYR1 mutation p.Thr84Met revealed a susceptibility to malignant hyperthermia	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2018APR;32(2):174-181	Original Article
189	Otsuki S, Yasuda T, Mukaida K 他	麻酔科	Myotoxicity of local anesthetics is equivalent in individuals with and without predisposition to malignant hyperthermia	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2018AUG;32(4):616-623	Original Article
190	Fukuhara K, Kondo T, Miyoshi H 他	麻酔科	Rotational thromboelastometry-guided perioperative management of coagulation in a patient with Heyde's syndrome undergoing transcatheter aortic valve implantation	JA CLINICAL REPORTS. 2019JAN 11;50:-	Original Article

計10件

191	Miyoshi H, Hamada H, Nakamura R 他	麻酔科	Postoperative thoracic and low back pain following endovascular aortic repair associated with stenting location	JOURNAL OF ANESTHESIA. 2019FEB;33(1):75-79	Original Article
192	Hirashio S, Awaya T, Oshima K 他	腎臓内科	Favorable effect of bortezomib in dense deposit disease associated with monoclonal gammopathy: a case report	BMC NEPHROLOGY. 2018MAY 3;190:-	Original Article
193	Hirashio S, Masaki T 他	腎臓内科	A case of immunotactoid glomerulopathy with false-negative IgG staining	BMC NEPHROLOGY. 2018JUN 15;190:-	Original Article
194	Yamada Y, Ueno T, Irifuku T 他	腎臓内科	Tocilizumab histologically improved AA renal amyloidosis in a patient with multicentric Castleman disease: A case report	CLINICAL NEPHROLOGY. 2018SEP;90(3):232-236	Original Article
195	Shindo T, Doi S, Masaki T 他	腎臓内科	TGF-beta 1 promotes expression of fibrosis-related genes through the induction of histone variant H3.3 and histone chaperone HIRA	SCIENTIFIC REPORTS. 2018SEP 19;80:-	Original Article
196	Yoshida K, Nakashima A, Masaki T 他	腎臓内科	Serum-Free Medium Enhances the Immunosuppressive and Antifibrotic Abilities of Mesenchymal Stem Cells Utilized in Experimental Renal Fibrosis	STEM CELLS TRANSLATIONAL MEDICINE. 2018DEC;7(12):893-905	Original Article
197	Masaki T	腎臓内科	Long-term maintenance of hemoglobin levels in hemodialysis patients treated with bi-weekly epoetin beta pegol switched from darbepoetin alfa: a single-center, 12-month observational study in Japan	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS. 2019JUN;22(2):146-153	Original Article
198	Goriki A, Matsubara A, Hayashi T 他	泌尿器科	Unravelling disparate roles of NOTCH in bladder cancer	NATURE REVIEWS UROLOGY. 2018JUN;15(6):345-357	Review
199	Teishima J, Takayama Y, Iwaguro S 他	泌尿器科	Usefulness of personalized three-dimensional printed model on the satisfaction of preoperative education for patients undergoing robot-assisted partial nephrectomy and their families	INTERNATIONAL UROLOGY AND NEPHROLOGY. 2018JUN;50(6):1061-1066	Original Article
200	Teishima J, Shinmei S, Inoue S 他	泌尿器科	Normalization of C-reactive protein levels following cytoreductive nephrectomy in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with tyrosine kinase inhibitors is associated with improved overall survival	UROLOGIC ONCOLOGY-SEMINARS AND ORIGINAL INVESTIGATIONS. 2018JUL;36(7):-	Original Article

計10件

201	Kohada Y, Hayashi T, Goto K 他	泌尿器科	Preoperative risk classification using neutrophil-lymphocyte ratio and hydronephrosis for upper tract urothelial carcinoma	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY. 2018SEP;48(9):841-849	Original Article
202	Fukuoka K, Matsubara A	泌尿器科	The Embryonic Ascent of the Kidney Revisited	ANATOMICAL RECORD-ADVANCES IN INTEGRATIVE ANATOMY AND EVOLUTIONARY BIOLOGY. 2019FEB;302(2):278-287	Original Article
203	Inoue S, Hayashi T, Hieda K 他	泌尿器科	Longitudinal analysis of laparoendoscopic single-site adrenalectomy and conventional laparoscopic adrenalectomy regarding patient-reported satisfaction and cosmesis outcomes	ASIAN JOURNAL OF SURGERY. 2019MAR;42(3):514-519	Original Article
204	Teishima J, Hayashi T, Nagamatsu H 他	泌尿器科	Fibroblast Growth Factor Family in the Progression of Prostate Cancer	JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2019FEB;8(2):-	Review
205	Sekino Y, Oue N, Koike Y 他	泌尿器科	KIFC1 Inhibitor CW069 Induces Apoptosis and Reverses Resistance to Docetaxel in Prostate Cancer	JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2019FEB;8(2):-	Original Article
206	Teishima J, Inoue S, Hayashi T 他	泌尿器科	Current status of prognostic factors in patients with metastatic renal cell carcinoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY. 2019JUN;26(6):608-617	Review
207	Tatsugami F, Higaki T, Sakane H 他	放射線診断科	Diagnostic accuracy of in-stent restenosis using model-based iterative reconstruction at coronary CT angiography: initial experience	BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY. 2018;91(1082):-	Original Article
208	Baba Y, Arai K	放射線診断科	A new embolic liquid agent comprised of amino acid	MINIMALLY INVASIVE THERAPY & ALLIED TECHNOLOGIES. 2018;27(1):17-21	Review
209	Fuji T, Nakamura Y, Fukumoto W 他	放射線診断科	Clinical Indication for Computed Tomography During Hepatic Arteriography (CTHA) in Addition to Dynamic CT Studies to Identify Hypervascularity of Hepatocellular Carcinoma	CARDIOVASCULAR AND INTERVENTIONAL RADIOLOGY. 2018APR;41(4):618-627	Original Article
210	Kishida N, Sentani K, Terada H 他	放射線診断科	Anastomosing haemangioma with fatty changes in the perirenal space: a lesion mimicking liposarcoma	BJR CASE REPORTS. 2018;4(2):-	Original Article

計10件

211	Akagi M, Nakamura Y, Higaki T 他	放射線診断科	Preliminary Results of High-Precision Computed Diffusion Weighted Imaging for the Diagnosis of Hepatocellular Carcinoma at 3 Tesla	JOURNAL OF COMPUTER ASSISTED TOMOGRAPHY. 2018MAY-JUN;42(3):373-379	Original Article
212	Honda Y, Nakamura Y, Goto K 他	放射線診断科	Tubulocystic renal cell carcinoma: a review of literature focused on radiological findings for differential diagnosis	ABDOMINAL RADIOLOGY. 2018JUL;43(7):1540-1545	Review
213	Kaichi Y, Tatsugami F, Nakamura Y 他	放射線診断科	Improved differentiation between high- and low-grade gliomas by combining dual-energy CT analysis and perfusion CT	MEDICINE. 2018AUG;97(32):	Original Article
214	Baba Y	放射線診断科	Oxidative stress induced by portal vein embolization in fatty liver: Experimental study of a nonalcoholic steatohepatitis model	BIOMEDICAL REPORTS. 2018OCT;9(4):357-363	Original Article
215	Kajiwar K, Baba Y, Akita T 他	放射線診断科	New Diagnostic Criteria for the Localization of Insulinomas with the Selective Arterial Calcium Injection Test: Decision Tree Analysis	JOURNAL OF VASCULAR AND INTERVENTIONAL RADIOLOGY. 2018DEC; 29(12):1749-1753	Original Article
216	Higaki T, Nakamura Y, Awai K 他	放射線診断科	Clinical application of radiation dose reduction at abdominal CT	EUROPEAN JOURNAL OF RADIOLOGY. 2019FEB; 1110:68-75	Review
217	Nagata Y, Kimura T	放射線治療科	Stereotactic body radiotherapy (SBRT) for Stage I lung cancer	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY. 2018MAY;48(5):405-409	Review
218	Miura H, Ozawa S, Matsuura T 他	放射線治療科	4D modeling in a gimbaled linear accelerator by using gold anchor markers	REPORTS OF PRACTICAL ONCOLOGY AND RADIOTHERAPY. 2018MAY-JUN;23(3):183-188	Original Article
219	Miura H, Ozawa S, Okazue T 他	放射線治療科	Image quality and absorbed dose comparison of single- and dual-source cone-beam computed tomography	JOURNAL OF APPLIED CLINICAL MEDICAL PHYSICS. 2018MAY;19(3): 360-366	Original Article
220	Kubo K, Kimura T, Aikata H 他	放射線治療科	Long-term outcome of stereotactic body radiotherapy for patients with small hepatocellular carcinoma	HEPATOLOGY RESEARCH. 2018AUG;48(9):701-707	Original Article

計10件

221	Kimura T, Aikata H, Imano N 他	放射線治療科	Comparison of Stereotactic Body Radiation Therapy Combined With or Without Transcatheter Arterial Chemoembolization for Patients With Small Hepatocellular Carcinoma Ineligible for Resection or Ablation Therapies	TECHNOLOGY IN CANCER RESEARCH & TREATMENT. 2018JUL 1;170:-	Original Article
222	Murakami Y, Hamai Y, Emi M 他	放射線治療科	Long-term results of neoadjuvant chemoradiotherapy using cisplatin and 5-fluorouracil followed by esophagectomy for resectable, locally advanced esophageal squamous cell carcinoma	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH. 2018SEP;59(5):616-624	Original Article
223	Miura H	放射線治療科	Gantry angle classification with a fluence map in intensity-modulated radiotherapy for prostate cases using machine learning	POLISH JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS AND ENGINEERING. 2018DEC;24(4):165-169	Original Article
224	Miura H, Doi Y, Ozawa S 他	放射線治療科	Volumetric modulated arc therapy with robust optimization for larynx cancer	PHYSICA MEDICA-EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS. 2019FEB;58(1):54-58	Original Article
225	Saito A, Murakami Y, Ozawa S 他	放射線治療科	Automatic calibration of an arbitrarily-set near-infrared camera for patient surface respiratory monitoring	MEDICAL PHYSICS. 2019MAR;46(3):1163-1174	Original Article
226	Miura H, Ozawa S, Nagata Y 他	放射線治療科	Effect of image quality on correlation modeling error using a fiducial marker in a gimbaled linear accelerator	REPORTS OF PRACTICAL ONCOLOGY AND RADIOTHERAPY. 2019MAR-APR;24(2):233-238	Original Article
227	Yamaga S, Shime N	高度救命救急センター	Association between appropriate empiric antimicrobial therapy and mortality from bloodstream infections in the intensive care unit	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY. 2018APR;24(4):267-271	Original Article
228	Ohshimo S, Shime N	高度救命救急センター	Comparison of extracorporeal membrane oxygenation outcome for influenza-associated acute respiratory failure in Japan between 2009 and 2016	JOURNAL OF INTENSIVE CARE. 2018JUL 11;60:-	Original Article
229	Shime N	高度救命救急センター	Clinical outcomes after initial treatment of methicillin-resistant Staphylococcus aureus infections	INFECTION AND DRUG RESISTANCE. 2018;11(10):1073-1081	Original Article
230	Shime N	高度救命救急センター	Implementation of an empirical antimicrobial protocol in a critical care setting: A single-center retrospective observational cohort study in bacteremic patients	JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY. 2018DEC;24(12):965-968	Original Article

計10件

231	Kida Y, Ohshimo S, Kyo M 他	高度救命救急センター	Rapid-onset plasma leakage of extracorporeal oxygenation membranes possibly due to hyperbilirubinemia	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS. 2018DEC;21(4):475-478	Original Article
232	Ohshimo S, Shine N	高度救命救急センター	Ventilator-associated events: prevalence and mortality in Japan	JOURNAL OF THORACIC DISEASE. 2018DEC;10(12):6942-6949	Original Article
233	Tokumo K, Masuda T, Miyama T 他	がん化学療法科	Nivolumab-induced severe pancytopenia in a patient with lung adenocarcinoma	LUNG CANCER. 2018MAY;119(2):21-24	Original Article
234	Fujii S, Fujimoto K, Goto N 他	歯科保存診療科	Characterization of human dental pulp cells grown in chemically defined serum-free medium	BIOMEDICAL REPORTS. 2018APR;8(4):350-358	Original Article
235	Akutagawa K, Fujita T, Ouhara K 他	歯科保存診療科	Glycyrrhizic acid suppresses inflammation and reduces the increased glucose levels induced by the combination of Porphyromonas gulae and ligature placement in diabetic model mice	INTERNATIONAL IMMUNOPHARMACOLOGY. 2019MAR;68(3):30-38	Original Article
236	Suzuki S, Nagayasu S, Nakanishi J 他	歯科保存診療科	Dental pulp cell-derived powerful inducer of TNF- α comprises PKR containing stress granule rich microvesicles	SCIENTIFIC REPORTS. 2019MAR 7;9(1):-	Original Article
237	Shindo S, Shiba H	歯科保存診療科	Interleukin (IL)-35 Suppresses IL-6 and IL-8 Production in IL-17A-Stimulated Human Periodontal Ligament Cells	INFLAMMATION. 2019JUN;42(3):835-840	Original Article
238	Fujita T, Yoshimoto T, Kajiya M 他	歯周診療科	Regulation of defensive function on gingival epithelial cells can prevent periodontal disease	JAPANESE DENTAL SCIENCE REVIEW. 2018MAY;54(2):66-75	Review
239	Ouhara K, Munenaga S, Kajiya M 他	歯周診療科	The induced RNA-binding protein, HuR, targets 3'-UTR region of IL-6 mRNA and enhances its stabilization in periodontitis	CLINICAL AND EXPERIMENTAL IMMUNOLOGY. 2018JUN;192(3):325-336	Original Article
240	Aida Y, Kurihara H, Kato K 他	歯周診療科	Wnt3a promotes differentiation of human bone marrow-derived mesenchymal stem cells into cementoblast-like cells	IN VITRO CELLULAR & DEVELOPMENTAL BIOLOGY-ANIMAL. 2018JUN;54(6):468-476	Original Article

計10件

241	Matsuda S, Memida T, Mizuno N 他	歯周診療科	Reparative bone-like tissue formation in the tooth of a systemic sclerosis patient	INTERNATIONAL ENDODONTIC JOURNAL. 2018SEP;51(9):1059-1066	Original Article
242	Munenaga S, Ouhara K, Hamamoto Y 他	歯周診療科	The involvement of C5a in the progression of experimental arthritis with Porphyromonas gingivalis infection in SKG mice	ARTHRITIS RESEARCH & THERAPY. 2018NOV 3;20():-	Original Article
243	Komatsu N, Kajiya M, Motoike S 他	歯周診療科	Type I collagen deposition via osteoinduction ameliorates YAP/TAZ activity in 3D floating culture clumps of mesenchymal stem cell/extracellular matrix complexes	STEM CELL RESEARCH & THERAPY. 2018DEC 7;9():-	Original Article
244	Sasaki S, Takeda K, Takewaki M 他	歯周診療科	BDNF/HMW-HA complex as an adjunct to nonsurgical periodontal treatment of ligature-induced periodontitis in dogs	JOURNAL OF PERIODONTOLOGY. 2019JAN;90(1):98-109	Original Article
245	Yoshioka Y, Nakatao H, Hamana T 他	顎・口腔外科	Suture granulomas developing after the treatment of oral squamous cell carcinoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY CASE REPORTS. 2018;50():68-71	Original Article
246	Toratani S, Ogawa I, Sasahara H 他	顎・口腔外科	Pathological factors involved in local failure in squamous cell carcinoma of the oral cavity: retrospective study and proposal of a new clinical classification	INTERNATIONAL JOURNAL OF ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY. 2019FEB;48(2):143-151	Original Article
247	Ishida Y, Ohta K, Naruse T 他	口腔顎顔面再建外科	Candida albicans beta-Glucan-Containing Particles Increase HO-1 Expression in Oral Keratinocytes via a Reactive Oxygen Species/p38 Mitogen-Activated Protein Kinase/Nrf2 Pathway	INFECTION AND IMMUNITY. 2018APR;86(4):-	Original Article
248	Kato K, Morita K, Hirata I 他	口腔インプラント診療科	Enhancement of calcification by osteoblasts cultured on hydroxyapatite surfaces with adsorbed inorganic polyphosphate	IN VITRO CELLULAR & DEVELOPMENTAL BIOLOGY-ANIMAL. 2018JUN;54(6):449-457	Original Article
249	Kawano H, Mori T, Kuroki A 他	咬合・義歯診療科	Candy eating behaviour to improve swallowing function in dementia subjects	ARCHIVES OF GERONTOLOGY AND GERIATRICS. 2018MAR-APR; 75():181-184	Original Article
250	Morita K, Tsuka H, Kato K 他	咬合・義歯診療科	Effect of polymerization temperature on the properties of autopolymerizing resin	JOURNAL OF PROSTHETIC DENTISTRY. 2018MAY; 119(5):840-844	Original Article

計10件

251	Umehara H, Doi K, Oki Y 他	咬合・義歯診療科	Histological and Bone Morphometric Evaluation of Osseointegration Aspects by Alkali Hydrothermally-Treated Implants	APPLIED SCIENCES-BASEL. 2018APR;8(4):-	Original Article
252	Morita K, Mori T, Maruyama M 他	咬合・義歯診療科	Association between buccal mucosa ridging and oral or occlusal status among older people	ORAL DISEASES. 2018JUL; 24(5):778-783	Original Article
253	Morita K, Tsuka H, Kato K 他	咬合・義歯診療科	Factors related to masticatory performance in healthy elderly individuals	JOURNAL OF PROSTHODONTIC RESEARCH. 2018OCT;62(4): 432-435	Original Article
254	Tsuka H, Morita K, Kato K 他	咬合・義歯診療科	Effect of laser groove treatment on shear bond strength of resin-based luting agent to polyetheretherketone (PEEK)	JOURNAL OF PROSTHODONTIC RESEARCH. 2019JAN;63(1): 52-57	Original Article
255	Kobatake R, Doi K, Kubo T 他	咬合・義歯診療科	Novel fabrication of porous titanium by a resin-impregnated titanium substitution technique for bone reconstruction	RSC ADVANCES. 2019JAN 13;9(3):1625-1631	Original Article
256	Yokoi M, Kuremoto KI, Okada S 他	咬合・義歯診療科	Effect of attenuation of fibroblast growth factor receptor 2b signaling on odontoblast differentiation and dentin formation	IN VITRO CELLULAR & DEVELOPMENTAL BIOLOGY-ANIMAL. 2019MAR;55(3):211-219	Original Article
257	Kunimatsu R, Awada T, Yoshimi Y 他	矯正歯科	The C-terminus of the amelogenin peptide influences the proliferation of human bone marrow mesenchymal stem cells	JOURNAL OF PERIODONTOLOGY. 2018APR;89(4):496-505	Original Article
258	Sumi C, Hirose N, Yanoshita M 他	矯正歯科	Semaphorin 3A Inhibits Inflammation in Chondrocytes under Excessive Mechanical Stress	MEDIATORS OF INFLAMMATION. 2018;0:-	Original Article
259	Yamamoto T, Kaku M, Sumi H 他	矯正歯科	Effects of loxoprofen on the apical root resorption during orthodontic tooth movement in rats	PLOS ONE. 2018APR 25; 13(4):-	Original Article
260	Kunimatsu R, Nakajima K, Awada T 他	矯正歯科	Comparative characterization of stem cells from human exfoliated deciduous teeth, dental pulp, and bone marrow-derived mesenchymal stem cells	BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS. 2018JUN 18;501(1):193-198	Original Article

計10件

261	Kunimatsu R, Gunji H, Tsuka Y 他	矯正歯科	Effects of high-frequency near-infrared diode laser irradiation on the proliferation and migration of mouse calvarial osteoblasts	LASERS IN MEDICAL SCIENCE. 2018JUL;33(5):959-966	Original Article
262	Yanoshita M, Hirose N, Okamoto Y 他	矯正歯科	Cyclic Tensile Strain Upregulates Pro-Inflammatory Cytokine Expression Via FAK-MAPK Signaling in Chondrocytes	INFLAMMATION. 2018OCT;41(5):1621-1630	Original Article
263	Sumi K, Abe T, Kunimatsu R 他	矯正歯科	The effect of mesenchymal stem cells on chemotaxis of osteoclast precursor cells	JOURNAL OF ORAL SCIENCE. 2018JUN;60(2):221-225	Original Article
264	Abe T, Sumi K, Kunimatsu R 他	矯正歯科	Dynamic imaging of the effect of mesenchymal stem cells on osteoclast precursor cell chemotaxis for bone defects in the mouse skull	JOURNAL OF DENTAL SCIENCES. 2018DEC;13(4):354-359	Original Article
265	Tsuka Y, Kunimatsu R, Gunji H 他	矯正歯科	Effects of Nd:YAG low-level laser irradiation on cultured human osteoblasts migration and ATP production: in vitro study	LASERS IN MEDICAL SCIENCE. 2019FEB;34(1):55-60	Original Article
266	Abe T, Sumi K, Kunimatsu R 他	矯正歯科	The effect of mesenchymal stem cells on osteoclast precursor cell differentiation	JOURNAL OF ORAL SCIENCE. 2019MAR;61(1):30-35	Original Article
267	Tsubamoto-Sano N, Ueda H, Kaku M 他	矯正歯科	Influences of mouth breathing on memory and learning ability in growing rats	JOURNAL OF ORAL SCIENCE. 2019MAR;61(1):119-124	Original Article
268	Nakamoto T, Verdonschot RG, Kakimoto N 他	歯科放射線科	Improvement of region of interest extraction and scanning method of computer-aided diagnosis system for osteoporosis using panoramic radiographs	ORAL RADIOLOGY. 2018MAY;35(2):143-151	Original Article
269	Shimizu Y, Okazaki T, Hamana T 他	歯科麻酔科	Management of an Internal Carotid Artery Injury Caused by a Displaced Titanium Plate With a Combination of Interventional Vascular Radiology and Surgery	JOURNAL OF ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY. 2018JUN;76(6):-	Original Article
270	Miyahara T, Seki T, Hide I 他	歯科麻酔科	Propofol induced diverse and subtype-specific translocation of PKC families	JOURNAL OF PHARMACOLOGICAL SCIENCES. 2018MAY;137(1):20-29	Original Article

計10件

271	Yoshida M, Shimizu Y, Yoshida K 他	歯科麻酔科	Effective Postoperative Analgesia Using Intravenous Flurbiprofen and Acetaminophen	JOURNAL OF ORAL AND MAXILLOFACIAL SURGERY. 2018SEP;76(9):1869-1872	Original Article
272	Obayashi T, Nagatani Y, Kawaguchi H 他	口腔総合診療科	Dental trainees reflect more critically on negative experiences: portfolio analysis using a pragmatic approach and a rubric in Japan	BMC MEDICAL EDUCATION. 2018DEC 4;18(0):-	Original Article
273	Ishitobi H, Sanada Y, Miyaki S 他	未来医療センター	Carnosic acid attenuates cartilage degeneration through induction of heme oxygenase-1 in human articular chondrocytes	EUROPEAN JOURNAL OF PHARMACOLOGY. 2018JUL 5;830(0):1-8	Original Article
274	Nakano R, Ohira M, Yano T 他	未来医療センター	Hepatic irradiation persistently eliminates liver resident NK cells	PLOS ONE. 2018JUN 13;13(6):-	Original Article
275	Ohira M, Kobayashi T, Hashimoto M 他	未来医療センター	Prognostic factors in patients with recurrent intrahepatic cholangiocarcinoma after curative resection: A retrospective cohort study	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY. 2018JUN;54(0):156-162	Original Article
276	Nakano R, Ohira M, Kobayashi T 他	未来医療センター	Hepatectomy versus stereotactic body radiotherapy for primary early hepatocellular carcinoma: A propensity-matched analysis in a single institution	SURGERY. 2018AUG;164(2):219-226	Original Article
277	Imaoka Y, Ohira M, Yano T 他	未来医療センター	Polymorphisms in TRAIL predict long-term survival and extrahepatic recurrence following initial hepatectomy for hepatocellular carcinoma	JOURNAL OF HEPATO-BILIARY-PANCREATIC SCIENCES. 2018AUG;25(8):370-376	Original Article
278	Nakano R, Ohira M, Kobayashi T 他	未来医療センター	Independent risk factors that predict bile leakage after hepatectomy for hepatocellular carcinoma: Cohort study	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY. 2018SEP;57(0):1-7	Original Article
279	Kamei N, Adachi N, Ochi M 他	未来医療センター	Magnetic cell delivery for the regeneration of musculoskeletal and neural tissues	REGENERATIVE THERAPY. 2018DEC;9(0):116-119	Review
280	Kamei N, Ochi M, Adachi N 他	未来医療センター	The safety and efficacy of magnetic targeting using autologous mesenchymal stem cells for cartilage repair	KNEE SURGERY SPORTS TRAUMATOLOGY ARTHROSCOPY. 2018DEC;26(12):3626-3635	Original Article

計10件

281	Ota Y, Kamei N, Tamaura T 他	未来医療センター	Magnetic Resonance Imaging Evaluation of Cartilage Repair and Iron Particle Kinetics After Magnetic Delivery of Stem Cells	TISSUE ENGINEERING PART C-METHODS. 2018DEC 1; 24(12):679-687	Original Article
282	Imaoka Y, Ohira M, Nakano R 他	未来医療センター	Impact of Abdominal Aortic Calcification Among Liver Transplantation Recipients	LIVER TRANSPLANTATION. 2019JAN; 25(1):79-87	Original Article
283	Hirano D, Urabe Y, Tanaka S 他	未来医療センター	Early-stage serrated adenocarcinomas are divided into several molecularly distinct subtypes	PLOS ONE. 2019FEB 20; 14(2):-	Original Article
284	Tamura R, Doi S, Nakashima A 他	透析内科	Inhibition of the H3K4 methyltransferase SET7/9 ameliorates peritoneal fibrosis	PLOS ONE. 2018MAY 3; 13(5):-	Original Article
285	Yamauchi T, Doi S, Nakashima A 他	透析内科	Na ⁺ -Cl ⁻ cotransporter-mediated chloride uptake contributes to hypertension and renal damage in aldosterone-infused rats	AMERICAN JOURNAL OF PHYSIOLOGY-RENAL PHYSIOLOGY. 2018AUG; 315(2):F300-F312	Original Article
286	Soji K, Doi S, Nakashima A 他	透析内科	Deubiquitinase inhibitor PR-619 reduces Smad4 expression and suppresses renal fibrosis in mice with unilateral ureteral obstruction	PLOS ONE. 2018AUG 16; 13(8):-	Original Article
287	Wakamoto K, Doi S, Nakashima A 他	透析内科	Comparing the 12-month patency of low- versus high-pressure dilation in failing arteriovenous fistulae: A prospective multicenter trial (YOROI study)	JOURNAL OF VASCULAR ACCESS. 2018SEP; 19(5): 477-483	Original Article
288	Sanomura Y, Oka S, Tanaka S 他	内視鏡診療科	Taking Warfarin with Heparin Replacement and Direct Oral Anticoagulant Is a Risk Factor for Bleeding after Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer	DIGESTION. 2018; 97(3):240-249	Original Article
289	Yuge R, Takigawa H, Naito T 他	内視鏡診療科	Silencing of Discoidin Domain Receptor-1 (DDR1) Concurrently Inhibits Multiple Steps of Metastasis Cascade in Gastric Cancer	TRANSLATIONAL ONCOLOGY. 2018JUN; 11(3):575-584	Original Article
290	Hayashi R, Ueno Y, Tanaka S 他	内視鏡診療科	Rectal Lymphoid Follicle Aphthous Lesions Frequently Progress to Ulcerative Colitis with Proximal Extension	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(5):625-631	Original Article

計10件

291	Yuge R, Fujii T, Shinagawa K 他	内視鏡診療科	A Questionnaire Survey on the Sequence of Events Prior to Undergoing Colonoscopy: The Influence of the Behavioral Response after a Fecal Occult Blood Test on the Early Detection of Colorectal Cancer	INTERNAL MEDICINE. 2019; 58(11):1541-1547	Original Article
292	Shiroma N, Arihiro K, Oda M 他	病理診断科	KRAS fluorescence in situ hybridisation testing for the detection and diagnosis of pancreatic adenocarcinoma	JOURNAL OF CLINICAL PATHOLOGY. 2018OCT; 71(10):865-873	Original Article
293	Miki K, Saito A, Nakashima T 他	放射線部	Evaluation of optimization workflow using design of experiment (DoE) for various field configurations in volumetric-modulated arc therapy	PHYSICA MEDICA-EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS. 2018OCT;540:34-41	Original Article
294	Miki K, Hioki K, Nakashima T 他	放射線部	Development of geometrically ideal dose distribution as a reference for treatment planning in VMAT using filtered back-projection method	PHYSICA MEDICA-EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS. 2019JAN;570:115-122	Original Article
295	Shibata Y, Sagara Y, Yokooji T 他	薬剤部	Evaluation of Risk of Injury by Extravasation of Hyperosmolar and Vasopressor Agents in a Rat Model	BIOLOGICAL & PHARMACEUTICAL BULLETIN. 2018JUN;41(6): 951-956	Original Article
296	Yoshikawa H, Sakurashita H, Izumitani S 他	薬剤部	Safety of Y-90-ibritumomab Tiuxetan Treatment for Japanese Patients in Real-world Clinical Practice	YAKUGAKU ZASSHI-JOURNAL OF THE PHARMACEUTICAL SOCIETY OF JAPAN. 2019JAN;139(1):131-134	Original Article
297	Kawakami Y, Ochi H, Hayes CN 他	総合医療研究推進センター	Efficacy and safety of ledipasvir/sofosbuvir with ribavirin in chronic hepatitis C patients who failed daclatasvir/asunaprevir therapy: pilot study	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY. 2018APR;53(4):548-556	Original Article
298	Asaeda M, Kuwahara W, Fujita N 他	診療支援部	Validity of motion analysis using the Kinect system to evaluate single leg stance in patients with hip disorders	GAIT & POSTURE. 2018MAY; 620:458-462	Original Article
299	Nishikawa Y, Takahashi T, Maruyama H 他	診療支援部	Effects of controlled abnormal joint movement on the molecular biological response in intra-articular tissues during the acute phase of anterior cruciate ligament injury in a rat model	BMC MUSCULOSKELETAL DISORDERS. 2018MAY 29; 190:-	Original Article
300	Taito S, Taito M	診療支援部	Rehabilitation for patients with sepsis: A systematic review and meta-analysis	PLOS ONE. 2018JUL 26; 13(7):-	Review

計10件

301	Nishikawa Y, Takahashi T, Kimura H 他	診療支援部	The effect of medication on vastus lateralis muscle activation patterns in Parkinson's disease patients	JOURNAL OF ELECTROMYOGRAPHY AND KINESIOLOGY. 2018OCT; 42(0):66-73	Original Article
302	Taito S, Shime N, Ota K 他	診療支援部	Out-of-bed mobilization of patients undergoing mechanical ventilation with orotracheal tubes: A survey study.	JOURNAL OF CRITICAL CARE. 2018OCT;47(0):173-177	Original Article
303	Taito S	診療支援部	Does enhanced physical rehabilitation following intensive care unit discharge improve outcomes in patients who received mechanical ventilation? A systematic review and meta-analysis	BMJ OPEN. 2019JUN;9(6):-	Review
304	Yokomachi K, Tatsugami F, Higaki T 他	診療支援部	Neointimal formation after carotid artery stenting: phantom and clinical evaluation of model-based iterative reconstruction (MBIR)	EUROPEAN RADIOLOGY. 2019JAN;29(1):161-167	Original Article
305	Tamura T, Takasu M, Higaki T 他	診療支援部	How to Improve the Conspicuity of Breast Tumors on Computed High b-value Diffusion-weighted Imaging	MAGNETIC RESONANCE IN MEDICAL SCIENCES. 2019; 18(2):119-125	Original Article
306	Kawahara D, Ozawa S, Yokomachi K 他	診療支援部	Accuracy of the raw-data-based effective atomic numbers and monochromatic CT numbers for contrast medium with a dual-energy CT technique	BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY. 2018;91(1082):-	Original Article
307	Kawahara D, Ozawa S, Nakashima T 他	診療支援部	Interfractional diaphragm changes during breath-holding in stereotactic body radiotherapy for liver cancer	REPORTS OF PRACTICAL ONCOLOGY AND RADIOTHERAPY. 2018MAR-APR;23(2):84-90	Original Article
308	Kawahara D, Ozawa S, Yokomachi K 他	診療支援部	Automatic contrast medium extraction system using electron density data with dual-energy CT	BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY. 2018;91(1090):-	Original Article
309	Ochi Y, Saito A, Kawahara D 他	診療支援部	A novel risk analysis of clinical reference dosimetry based on failure modes and effects analysis	PHYSICA MEDICA-EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS. 2019FEB;58(0):59-65	Original Article
310	Miyamoto S, Takahashi S, Takahashi H 他	診療支援部	Abdominal organ protection strategy for aortic arch aneurysm surgery	PERFUSION-UK. 2018OCT; 33(7):512-519	Original Article

計10件

311	Asano M, Motoike S, Yokota C 他	診療支援部	SKF-10047, a prototype Sigma-1 receptor agonist, augmented the membrane trafficking and uptake activity of the serotonin transporter and its C-terminus-deleted mutant via a Sigma-1 receptor-independent mechanism	JOURNAL OF PHARMACOLOGICAL SCIENCES. 2019JAN;139(1):29-36	Original Article
-----	--------------------------------	-------	---	---	------------------

計1件
計311件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限り。)。

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の設置、委員会の業務、委員の責務、審査、判定の区分、手数料 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 本学の職員等が臨床研究に係る産学官連携活動等を行う場合における利益相反を適正に管理するために必要な事項を定めている。具体的には、ポリシーおよび臨床研究利益相反管理委員会の設置、アドバイザーの配置、臨床研究を実施しようとする職員等による自己申告、同委員会による調査、審査及びその他必要な手続きなどを定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年23回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 8 回
・研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について」「ここだけは押さえておきたい！統計学の基礎知識－臨床研究を始めるその前に－」「よく理解しておかないといけない臨床研究法概説-Up-To-Date-」「広島大学における治験CRC支援の今後～院内CRCとSMOのCRC～」「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針について（DVD研修）」「よく理解しておかないといけない臨床研究法概説-Up-To-Date-(2)」「コホート研究，ケースコントロール研究，横断研究」「利益相反について」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(「1 研修の内容」, 「3 研修統括者」については, 診療科ごとに作成: 別紙のとおり)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	120人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

[illegible]

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

外来研修としては、統合失調症、気分障害、不安障害、身体化障害、ストレス関連障害、症状性または器質性精神障害、睡眠障害、人格障害などの疾患において、一般的精神医学的な診察、診断と治療の方向性を決定する能力を養うため、予診や代理診察を行い上級医とともに診療に当たる。

病棟研修として、上記疾患における一般的な精神科診断、治療や、身体疾患を合併した精神疾患の治療を、上級医とともに担当し学ぶ。また週1回の病棟全体カンファレンスのみならず、週1回の病棟医のみで行うミニカンファレンスを行っている。精神科当直は月3～7回程度行う。コンサルテーション・リエゾン領域の研修として、がんや全身疾患などにもなつて出現する精神症状の診断、治療について学ぶ。週1回のリエゾンカンファレンスを行っている。

その他に、精神科の専門知識を習得するために週1回専攻医向けに年間計33回から成る講義を行っている（それぞれ専門知識を持つ各指導医が担当）。また週1回それぞれの精神科医が持ち回りで論文紹介などのランチタイムセミナーを行っている。さらに各連携施設の精神科医師も参加した症例検討会を隔月で行っている（発表は専攻医）。他にも月1回程度の各種勉強会や、年2回の精神科学会を開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	5 人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岡本泰昌	精神科	教授	30 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・血液疾患、固形腫瘍を中心とした小児難治性慢性疾患の入院患者を担当し、日々の診察・検査
・治療を通じて、小児診療に必要な知識・手技を習得する。また、子どもの病棟生活に関わり、
患児の発育・発達をはじめとした患児・家族の包括的支援について学習する。
・造血細胞移植の症例が多数あり、造血細胞移植の基本と手技ならびにその合併症、感染症を経験する。
・周産母子センターにおいて、病的新生児の蘇生、呼吸管理、循環管理などの初期対応を学習する。
・専門外来（血液、代謝、内分泌、神経、新生児、心臓、腎臓、リウマチ、児童精神など）の見学・研修を通じて、小児医療全般について学習する。
・救急外来（当院、広島市立舟入市民病院）の見学・研修を通じて、小児急性疾患、救急疾患の初期対応について学習する。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	2.33人
-------------	-------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
川口 浩史	小児科	診療教授	27 年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修を修了した医師に対しては、整形外科の各専門分野に関する専門的知識や手技の向上を目指し、外来診察の指導・手術手技の指導、学会への参加などの研修を行っている。

各関節外科、脊椎外科、腫瘍、リウマチ外科など整形外科の種々の分野における高度医療に関する研修を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数

0人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

[illegible]

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

はじめに

脳神経外科診療の対象は、国民病とも言える脳卒中（脳血管性障害）や脳神経外傷などの救急疾患、脳腫瘍に加え、てんかん・パーキンソン病・三叉神経痛・顔面けいれん等の機能的疾患、小児疾患、脊髄・脊椎・末梢神経疾患などです。脳神経外科専門医の使命は、これらの予防や診断、救急治療、手術および非手術的治療、あるいはリハビリテーションにおいて、総合的かつ専門的知識と診療技術を持ち、必要に応じて他の専門医への転送判断も的確に行うことで、国民の健康・福祉の増進に貢献することです。

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後に専門研修プログラム（以下「プログラム」という）に所属し4年以上の定められた研修により、脳神経外科領域の病気すべてに対して、予防や診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的知識と診療技能を、獲得します。

本文は、広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学専門研修プログラムの概要を示すものです。

プログラムの特徴や固有の教育方針・実績など

広島大学脳神経外科では、疾患単位の診療グルーピングと技術や手技単位のグルーピングを構成して、研修医は専門医研修の最初の1年を基幹施設で研修します。悪性脳腫瘍グループ（以下、Gと略す）、良性脳腫瘍G、血管障害G（血管内治療を含む）、てんかん外科G、脊椎外科・頭蓋底外科Gと大きく5Gにわけられ、研修医は2ヶ月を1単位として初めの各グループを回ります。残り2ヶ月をそれまでに十分症例を経験出来なかったGを回り、まんべんなく研修できます。また、小児神経外科に関しては、脳腫瘍は脳腫瘍Gの時に、小児もやもや病は血管障害Gの時に、水頭症は良性脳腫瘍Gの時に、二分脊椎は症例があるごとに脊椎外科Gと共に診療して経験します。頭部外傷に関しては、高度救命救急センターに脳神経外科専門医のスタッフがいるので、該当患者の手術・全身管理を一緒に行います。深部脳刺激に関しては、広島市内にある関連施設にて症例がある時に、手術に参加させて頂き研修します。従って、基幹施設にいる最初の1年目に連携施設や関連施設では経験が困難な、機能・てんかん外科、小児神経外科、脊椎・脊椎外科を一通り研修できます。この様にして、あらゆる領域を基幹施設、連携施設を中心に経験できます。

診療内容に関しては、高度医療機器を用いての診断や治療を共に実践できます。3TMRIや320列CT、フラットパネルdual projection DSA, Hybrid ORなど指導医と共に使用してその高度な内容の把握に努めます。実際、MRI診断は週4日、特殊検査のCTは週2日、診断と血管内治療を行うDSAは週4日、更に脳磁図週2日、SPECTは週2日、と脳神経外科自ら行っているのも、それぞれの診断、治療の助手として参加して研修しています。

手術機器としては、3種類の機能や性能の異なる手術用顕微鏡（ライカ、オリンパス、ツアイス）、ICGによる血流検査、5ALAによる悪性脳腫瘍の描出、各種電気生理学的モニター（SEP, MEP, ABR, facial nerve, AMR, VEP, EOM, lower cranial nerve, 脊髄レベルも含めて）は医療工学士と共に検査や判断を研修できます。また、BrainLabのナビゲーションシステムも必要に応じて使用し、手術の精度を上げています。平成28年5月からは、術中MRIを備えた情報統合型手術室Smart Cyber Operating Theater (SCOT)も稼働可能となり、画像誘導型手術のみならず、電気生理学的モニター情報、細胞生物学的及び細胞化学的情報、脳循環情報、光化学的治療なども同一情報レベルで扱い、ミドルウェアであるOpeLinkの開発を行い、手術戦略に応用する計画を進めています。2019年3月末までに、合計41症例の手術を行いました。脳腫瘍のみならず、難治性てんかんの焦点切除、骨腫瘍にも応用を広げることが出来ました。

手術数としては、この数年全体で年間380-410件。脳腫瘍150-190件、脳血管障害110-130件（血管内治療を含む）、てんかん・機能神経外科30-50件、脊髄脊椎外科20-30件、頭部外傷15-20件、

小児神経外科5-10件、等です。

以上、基幹施設としての広島大学病院脳神経外科の内容を詳述した。各subspecialty領域の研修統括者がその領域の責任者として指導しています。

「広島大学脳神経外科専門医養成プログラム」全体としては、昨年述べた施設・病院と内容です。プログラム全体として、年間経験症例数は2000例を超えています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	3.00人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
栗栖 薫	脳神経外科	科長・教授	38 年	脳神経外科専門医、救急医学会専門医 全体統括
飯田幸治	同上	准教授	29 年	同上、救急医学会専門医、てんかん診療専門医
山崎文之	同上	講師・診療准教授	26 年	同上、癌治療学会認定医
坂本繁幸	同上	講師	22 年	同上、脳神経血管内治療指導医・専門医
岡崎貴仁	同上	診療講師	21 年	同上、脳神経血管内治療指導医・専門医
武田正明	同上	診療講師	21 年	同上、脊髄外科学会指導医・専門医
木下康之	同上	診療講師	20 年	同上、神経内視鏡技術認定医
香川幸太	同上	助教	19 年	同上、てんかん診療専門医
光原崇文	同上	助教	18 年	同上、脊髄外科学会専門医、脳神経血管内治療専門医
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

皮膚科で取り扱う疾患は、アレルギー・膠原病・感染症などの内科系皮膚疾患から熱傷・皮膚悪性腫瘍などの外科系皮膚疾患まで多岐にわたる。また、皮膚症状が全身性疾患の部分症状として出現することも少なくない。

これらの皮膚疾患全般の診断と治療の方法を知り、原発疹、続発疹の名称を用いて口頭および記述により皮膚所見を表現し、一般的な皮膚疾患について検査および治療計画を立案と実施、または適切に専門医へ紹介する技能と態度を修得する。

具体的な手技としては糸状菌検査、皮膚縫合、軟膏外用療法、アレルギー検査等を経験し知識を身につける。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	1.17人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
秀道広	皮膚科	教授	35年	皮膚科専門医、アレルギー指導医
田中 暁生	皮膚科	准教授	19年	皮膚科専門医、アレルギー指導医
河合 幹雄	皮膚科	講師	24年	皮膚科専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医、熱傷専門医、がん治療認定医、認定褥瘡医師
高萩 俊輔	皮膚科	助教	17年	皮膚科専門医
菅 崇暢	皮膚科	助教	15年	皮膚科専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医
岩本 和真	皮膚科	助教	15年	皮膚科専門医、アレルギー専門医
森桶 聡	皮膚科	助教	14年	皮膚科専門医
松尾 佳美	皮膚科	助教	13年	皮膚科専門医
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

概要：本プログラムは、2年間の卒後臨床研修を終了して泌尿器科医をめざす医師を対象としており、広島大学およびその教育関連施設における計4年間の専門医教育の具体的内容を定めたものである。本プログラムの最終年度には、日本泌尿器科学会が認定する泌尿器科専門医の資格が得られるようにプログラムを運営する。

コース全体像：【泌尿器科専門医研修の開始宣言→原則として広島大学病院で泌尿器科基本手技研修を開始→広島大学関連施設にて前期研修(1～2年間)→広島大学関連施設にて後期研修(1～2年間)】(合計4年間の研修期間)→日本泌尿器科学会専門医取得(最短で卒業後6年目)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	4人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松原 昭郎	泌尿器科	教授	34年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

婦人科の進歩に応じ、広い知識、練磨された技能、高い倫理性を備えた産婦人科医を養成する。
1) 産科学, 婦人科学, 生殖医療学, 女性医学について, 診断, 治療の技術, 管理方法を修練する。
2) 大学病院, 関連研修病院をローテイトし, 周産期の診断と管理, 分娩・産科手術の実際を修練し, 女性の生理, 婦人科疾患の病態について幅広い知識を習得する。
3) 希望者(初期研修などでローテイトしていない者は)はNICUをローテイトし, NICUにおける未熟児を含む新生児管理についての知識と技術を習得する。
4) 日本専門医機構による新専門医制度に備え、日本産科婦人科学会に新たに認定された「産婦人科指導医」による指導体制を整えている。学会の示す指導施設のうち、総合型指導施設である基幹病院として、「広島大学産科婦人科 専門研修プログラム」を整備、改正しながらこれに沿った指導を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	3.5人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
工藤 美樹	産婦人科	教授	35 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期の4ヶ月では、患者とのコミュニケーションとラポール形成、基本的診察と検査手技、診療録への正確な記載などを指導医から実地指導を受け修得した。中期の4ヶ月では、各種プログラムに必要な症例の経験、レーザー治療を含めた基本手術手技の習得および手術助手を行った。後期の4ヶ月では、指導医のもと基本的手術手技を実際に経験した。具体的には、担当患者では手術室で指導医の管理のもと、局所消毒、手術介助を行うだけでなく、局所麻酔法や眼科手術における基本的術式の習得を行った。以上を経て、研修終了時には眼科主要疾患に対する診断と治療法が立案できた。さらに、専門性を高めるため講習会参加、学会発表、抄読などの高度教育を行った。その結果、疾患に対する理解を深め、眼科専門医として必要な知識と技能が習得できた。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	6人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
木内 良明	眼科	教授	36 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

第一期：大学病院における研修(1年：卒後3年目)

耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学研究室に入局後、1年間で耳鼻咽喉科一般の必要最低限の基礎的なトレーニングを終了し、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医として必要な臨床研修を行う。医療面接・記録：病歴聴取、所見の観察、把握が正しく行え、診断名の想定、鑑別診断を述べる事が出来る。検査：診断を確定させるための検査の意味を理解し実際に検査を行う事が出来る。治療：局所治療、内服治療、局所麻酔の方法、基本的な手術治療を行う事が出来る。

第二期：研修協力病院または大学病院における研修(2年：卒後4年目)

専門研修1年目の研修事項を確実にこなせることを前提に、関連研修施設あるいは大学病院で耳鼻咽喉科手術の基本技能を身につけていく。

第三期：研修協力病院または大学病院における研修(3年：卒後5年目)

より高度な技術を要する手術手技を習得する。学会発表、論文発表を行うための基本的知識を身につける。後進の指導を行うための知識、技能を身につける。

第四期：大学病院または研修協力病院における研修(4年：卒後6年目)

3年目までの研修事項をより深く理解し自分自身が主体となって治療ほかの医療・ケアをすすめていけるようにする。後進医師やコメディカルの指導をする。各年次を通してプログラムに定められた研修内容および到達レベルの評価を専攻医、指導医、プログラム責任者で行うとともに、その結果を専攻医、指導医にフィードバックする。

卒後6年の研修終了後には日本耳鼻咽喉科学会専門医受験資格を得る。また、この時期から各専門研究グループに入り、その専門知識の習得と研究を行う。希望があれば卒後5年目より大学院に入学し、学位論文に対応する研究論文を作成する。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	4人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
竹野 幸夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授・診療科長	32年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- (1) 単純X線写真・CT・MRI・核医学検査等の読影を行い、指導医のもとに画像診断報告書の作成を行う。この過程で、画像解剖・代表的な所見・鑑別診断法について習得する。
- (2) 研修中に経験した重要な症例について、指導医のもとでスライドにまとめ、放射線診断科の定例カンファレンスで発表する。この過程で各症例に関する知識をより深めるとともに、プレゼンテーションおよびディスカッション能力を習得する。
- (3) 様々なIVR手技に助手として参加し、検査後に指導医のもとで報告書を作成する。また、IVR入院患者につき指導医のもとに患者管理の基礎を修得する。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	2人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
栗井 和夫	放射線診断科	教授	33 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院では各臓器に発生する様々な悪性腫瘍を幅広く網羅している。個々の症例に対する治療戦略の構築は診察を踏まえた診療科内および診療科横断的カンファレンスを通して行っている。臨床研修を終了した医師は放射線治療科に所属し、初診時の診察から放射線治療計画立案、治療期間中の診療、治療終了後の効果判定と有害事象評価に携わることで臨床経験を積む。外部照射の治療計画は年間100例以上を経験する。小線源治療においては術者としてチームに加わり技術を習得する。院内で開催される月20回を超えるカンファレンスや勉強会に出席し、意見交換を通して知識の充実を図る。病棟においては、主に食道癌に対する化学放射線療法、甲状腺癌に対するヨード内用療法などの管理を通じて臨床経験を積む。また専門的研修を開始して1年ほどの経験を経た時点で関連領域である画像診断・IVRに関する研修を行う。これらの研修を踏まえて専門的研修開始後3年を経過した時点で放射線科専門医、5年を経過した時点で放射線治療専門医の資格を取得することを目指している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	1人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
永田 靖	放射線治療科	教授	37 年	
村上 祐司	放射線治療科	講師	24 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することができる麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。

具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	5人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
堤 保夫	麻酔科	教授	22 年	(公社)日本麻酔科学会認定麻酔科指導医 麻酔科標榜医
濱田 宏	麻酔科	准教授	34 年	同上
大下 恭子	麻酔科	講師	27 年	同上
安田 季道	麻酔科	助教	25 年	同上
原木 俊明	麻酔科	助教	18 年	同上
加藤 貴大	麻酔科	助教	17 年	同上
仁井内 浩	手術部	准教授	34 年	同上
佐伯 昇	手術部	講師	29 年	同上
中村 隆治	手術部	助教	19 年	同上
近藤 隆志	麻酔科	助教	16 年	同上
三好 寛二	麻酔科	助教	13 年	同上
田口 志麻	麻酔科	助教	19 年	同上
大月 幸子	麻酔科	助教	10 年	同上
神崎理英子	手術部	助教	11 年	同上
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. コースの概要

本コースでは軽症から重症、内科性から外因性疾患、そして小児から高齢者まで、幅広い急性期疾病に対応できる救急総合医の養成を目指す。

具体的習得目標

- 1) 救急初期診療における全身評価及び救命救急処置ができる。
- 2) 重症患者に対する集中治療ができる。
- 3) 一般救急外来患者への医療対応ができる。
- 4) 在宅や院外などの救急現場における急性期診療ができる。
- 5) リーダとして救急医療チームの指揮・指導ができる。
- 6) 災害時の医療対応ができる。
- 7) 病院前救護における指導や助言が行える。

広島大学病院高度救命救急センターは敗血症や呼吸不全、循環不全を中心とした種々の重症内因性疾患、重症外傷や熱傷、中毒など外因性疾患、小児重症疾患など多彩な疾病に対する重症患者管理において豊富な臨床経験を得ることのできる全国有数の施設です。ただし、広島大学病院の救急研修では初期・二次救急疾患、外傷外科、地域医療における臨床経験が不十分となるため、広島大学病院以外の救急医療施設と後期研修プログラムを構成しています。

2. 研修期間

2019年度については、日本救急医学会による旧認定プログラムと、新認定プログラム（専門医機構プログラム）の双方での研修が可能です。

- (1) 旧プログラムでは、1年単位での研修が可能です。合計3年（条件により最低1年）の研修により日本救急医学会救急科専門医取得が可能となります。
- (2) 新プログラムでは、3年間のプログラム研修により、救急科専門医取得が可能です。
- (3) 後期研修修了後の進路は希望に応じて対応可能です。
- (4) 広島大学ふるさと卒卒業生の就労義務年限の中での専門医取得が可能です。
- (5) 社会人大学院への進学も可能です。

3. 取得できる専門医、認定医について

1) 基本領域学会専門医

救急科専門医、救急科指導医

2) 多領域横断的関連学会専門医、新規加盟学会専門医

集中治療専門医（日本集中治療医学会）

熱傷専門医（日本熱傷学会）

クリニカル・トキシコロジスト（日本中毒学会）

脳卒中専門医（日本脳卒中学会）

呼吸療法専門医（日本呼吸療法医学会）

感染症専門医（日本感染症学会）

ICD：インフェクションコントロールドクター（ICD制度協議会）など

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	6人
-------------	----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

[illegible]

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科の基礎研究と臨床研究。

肺がん、食道がん、乳がんに対する外科手術。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 7 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岡田 守人	呼吸器外科	教授	31 年	
宮田 義浩	呼吸器外科	准教授	30 年	
角舎 学行	乳腺外科	講師	27 年	
浜井 洋一	消化器外科	講師	22 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心臓血管外科：外科サブスペシャリティの一つである心臓血管外科専門医取得を基本目標として研修する。当院は心臓血管外科専門医認定機構が定める心臓血管外科専門医育成のためのカリキュラム上認定修練施設となっており、同機構の修練カリキュラム基本概念（同機構ホームページ参照）に沿った研修を行っている。

消化器外科：まずは外科専門医を取得し、さらに難易度の高い消化器外科領域の手術を経験し、消化器外科専門医取得に必要な手術件数を経験することを目標とする。当院では消化器外科学会が定める修練施設となっており、専門医取得に必要な手術症例を経験することは十分可能である。

小児外科：外科専門医を取得した後、さらに専門的な知識の獲得と手術手技の修練を行い、小児外科専門医及び指導医の取得、さらに小児がん外科認定医、小児救急、新生児外科、小児内内視鏡外科の修練医等の取得を目標とする。特に大学病院であり小児がん拠点病院という特性から、新生児や小児悪性腫瘍など一般的には頻度の少なく難度の高い症例の経験が可能である。当院は日本小児外科学会が定める認定施設であり、小児外科専門医等取得のため、手術へ執刀医も含む立場での参加、また小児外科学会を始めとした国内のみならず海外学会への参加・発表も積極的に支援する。また、希望時には国内・海外留学の支援も行う。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	4 人
-------------	-----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高橋 信也	心臓血管外科	教授	21 年	
檜山 英三	小児外科	教授	37 年	
村上 義昭	消化器外科	准教授	36 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修を終了した医師が消化器外科領域（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科）および移植外科領域（肝移植、腎移植、膵移植）を専門的にトレーニングが受けられるよう、各専門領域をある一定期間ローテーションしつつ手術や周術期管理を中心により専門的に研修を行い、専門医資格の取得などを旨とする。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	4人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

[illegible]

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(歯科保存診療科)

1. 歯内療法および保存修復領域の疾患の病因・病態を理解し、診断・治療計画立案ができる。
2. 基本的歯内療法および保存修復治療をすることができる。
3. 根管内細菌嫌気・好気培養検査、歯科用マイクロスコープおよびニッケルチタンファイルを用いた歯内療法を実践することができる。
 - ・診療内容の難易度を考慮の上、担当を決定する。
 - ・診療上の疑問点、問題点については、研修統括者あるいは上級歯科医師への相談に加えて、必要に応じて医局員全員で症例検討を行う。

(歯周診療科)

歯周病治療に対する以下の専門的な研修を行う。

- ①歯周病の病因が理解できる。
- ②歯周病治療に対して必要な検査を行い、正しい診断ができる。
- ③一般的な歯周病について、個々の歯周病の特徴について、治療法および治療計画について、予後について、患者に対してわかりやすく説明できる。
- ④歯周病と全身疾患に関して理解し、患者に対してわかりやすく説明することができる。
- ⑤歯周基本治療、歯周外科治療、メインテナンスを実践することができる。

(口腔インプラント診療科)

1. インプラント義歯による補綴治療
2. 高齢者・有病者の全部床及び部分床義歯治療
3. 顎関節症の保存的治療
4. 摂食・嚥下リハビリテーション
5. 入院患者への往診口腔ケア、義歯治療

(咬合・義歯診療科)

1. 顎再建外科との連携したインプラント治療
2. CAD/CAM応用による歯冠修復と審美歯科治療
3. 高齢者・有病者への歯冠補綴治療、欠損補綴治療
4. 顎関節症の保存治療、ブラキシズム対策としての口腔内装置の応用
5. 入院患者への往診口腔ケア、義歯治療

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	13人
(歯科保存診療科)	(1人)
(歯周診療科)	(6人)
(口腔インプラント診療科)	(3人)
(咬合・義歯診療科)	(3人)

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
柴 秀樹	歯科(歯科保存診療科)	教授	30 年	
栗原英見	歯科(歯周診療科)	教授	39 年	
武田克浩	歯科(歯科保存診療科)	講師	18 年	
津賀 一弘	歯科(口腔インプラント診療科)	教授	34 年	
久保 隆靖	歯科(口腔インプラント診療科)	講師	32 年	
阿部 泰彦	歯科(口腔インプラント診療科)	准教授	30 年	
吉川 峰加	歯科(口腔インプラント診療科)	准教授	19 年	
安部倉 仁	歯科(咬合・義歯診療科)	講師	37 年	
吉田 光由	歯科(咬合・義歯診療科)	准教授	28 年	
土井 一矢	歯科(咬合・義歯診療科)	助教	17 年	
森田 晃司	歯科(咬合・義歯診療科)	助教	14 年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

矯正歯科に関わる専門研修を行っている。矯正歯科に必要な検査、診断、治療計画の作成法について、講義および症例検討会を開催するとともに、矯正装置作製およびタイポドント実習を行うことにより、必要な専門知識と技術の修得を図っている。診療室における臨床研修では、指導医の管理、指導の下、治療を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	10人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
谷本 幸太郎	矯正歯科	教授	27 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本大学病院小児歯科は、小児歯科を標榜し、日本小児歯科学会認定小児歯科専門医を養成するための研修医療施設として認められている。5年間の研修期間に小児歯科専門医としての診断力と高度な治療技術を修得するとともに、小児歯科学に関する臨床研究にも従事し、以下の項目を含む research mindを併せ持つ優秀な小児歯科専門医を養成している。

研修内容

- ①乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期の長期の成長過程にわたる口腔管理の実践
- ②小児口腔疾患の診査診断および治療技術の向上による高度診療力の修得
- ③小児の口腔軟組織小手術、埋伏過剰歯の摘出術等の治療技術の修得
- ④多職種連携、地域貢献および海外児童歯科医療支援活動の実践
- ⑤口腔の成長発達や小児口腔疾患に関連する分子生物学的および臨床的研究

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 1 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
香西克之	小児歯科	診療科長(教授)	38 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(顎・口腔外科)

口腔外科領域の認定歯科医・専門歯科医・指導歯科医（臨床インストラクター）となるための基本的な臨床能力（態度、技能、知識など）や臨床教育技法を習得する。

特に、

- 1、医の倫理についての考え方、患者心理に関する知識を身につける。
- 2、口腔外科領域および関連領域の疾患に対する適切な診察・診断能力を身につける。
- 3、口腔外科領域の疾患の適切な処置および手術手技を身につける。
- 4、患者の全身管理に必要な総合的医学知識を身につける。

(口腔顎顔面再建外科)

- ・外来診療（診察、小手術など）の指導
- ・入院患者に対する手術や術後周術期の管理
- ・カルテ記載方法
- ・保険点数と算定法

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	6人
(顎・口腔外科)	(3人)
(口腔顎顔面再建外科)	(3人)

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
岡本 哲治	歯科口腔外科(顎・口腔外科)	教授	39 年	
武知 正晃	歯科口腔外科(口腔顎顔面再建外科)	准教授	25 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

脳神経領域の臨床医に必要とされる幅広い診療技能を習得するために、脳卒中、神経疾患、老年科疾患を正しく診断し、適切な治療を行うための知識、診療手技、検査手技、治療手技を身につけるとともに、患者および家族、メディカルスタッフから信頼される人間性を身につける。その基盤となるプライマリケアおよび一般内科の基本的な診療技能を身につける。

原則として、卒後3年目から4年間を後期研修期間とし、大学病院および構成病院で研修を行う。ただし、中途での大学院入学や国内外の留学についても柔軟に対応する。

研修中の具体的な目標としては、一般身体的診察や脳神経内科的診察、一般内科的治療や脳神経内科的治療、超音波検査と診断（頸動脈エコー検査、神経超音波検査、心エコー検査など）、電気生理学的検査と診断（脳波、筋電図、神経伝導検査など）、画像検査と読影（MRI、SP ECT、CTなど）、髄液検査と診断、自律神経機能検査と評価、神経免疫検査と評価、血管撮影と読影等に習熟し、日本内科学会専門医および日本神経学会専門医を取得することを目標とする。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	2人
-------------	----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
丸山博文	脳神経内科	教授	29 年	
細見直永	脳神経内科	准教授	27 年	
高橋哲也	脳神経内科	診療准教授	26 年	
大下智彦	脳神経内科	講師	25 年	
上野弘貴	脳神経内科	診療講師	18 年	
山崎雄	脳神経内科	助教	17 年	
青木志郎	脳神経内科	診療講師	16 年	
祢津智久	脳神経内科	助教	14 年	
音成秀一郎	脳神経内科	助教	11 年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

研修する医師が、呼吸器内科疾患（びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息を含む気道疾患、呼吸器感染症、呼吸器悪性腫瘍など）の診断と治療方法を習得することを目標としている。この目標の達成のため、日本呼吸器学会が定める呼吸器専門医資格を有する医師を指導医として研修する医師に割り当て、日々指導を受けることができる体制を構築している。また、研修する医師が気管支内視鏡検査技術を習得することができるように、指導医により検査手技の指導が行われる体制も構築している。研修する医師が、最新の臨床診断方法や治療方法の知識を獲得するため、最新論文の抄読会に参加する機会も設けている。

研修統括者（それに准ずる指導医）は、病棟回診や症例検討会において、研修する医師に対して各疾患の診断と治療方法の指導を行っている。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	4人
-------------	----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
服部 登	呼吸器内科	教授	32 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

研修期間：2年間～4年間、卒後4年目以降(教室所属2年目以降)は、個々の希望に沿う進路を模索。

循環器診療は内科診療の要のひとつであり、臓器別の診療単位にとらわれない広い領域をカバーする分野です。近年、心不全患者数が増加しています。急性期の高度先進医療から心臓リハビリなどの慢性期医療、さらには生活習慣病の管理などの予防的医療と、様々な叡智が統合されることで心不全患者の管理は可能となります。高度な医療に関する研修を心不全センターにおいて展開し、複雑な病態を呈する循環器疾患に立ち向かえる医師の育成を目指しています。

取得可能な専門医、認定医

1. 日本内科学会認定内科医2. 日本内科学会認定総合内科専門医3. 日本循環器学会認定循環器専門医4. 日本心血管インターベンション学会認定医・指導医5. 日本超音波医学会専門医・指導医6. 心臓リハビリテーション指導士・認定医7. 日本高血圧学会専門医

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	0人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
木原 康樹	循環器内科	教授	40 年	統括、心不全等
中野 由紀子	循環器内科	准教授	28 年	不整脈等
栗栖 智	循環器内科	准教授	27 年	虚血性心疾患、心臓核医学等
福田 幸弘	循環器内科	講師	27 年	虚血性心疾患、弁膜症等
日高 貴之	循環器内科	助教	20 年	弁膜症、心不全、心エコー等
石橋 堅	循環器内科	助教	19 年	虚血性心疾患等
北川 知郎	循環器内科	助教	19 年	画像診断、心不全、心筋疾患等
宇都宮 裕人	循環器内科	助教	17 年	弁膜症、心エコー等
丸橋 達也	循環器内科	助教	17 年	高血圧症、動脈硬化、末梢血管疾患等
池永 寛樹	循環器内科	助教	14 年	虚血性心疾患、弁膜症等
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修修了者を対象として、広島県内主要関連病院にて3年間程度専門診療研修を実施している。その後、大学に帰学し、1年間の臨床研修後ののちに大学院へ進学することを基本コースとしている。

主要関連病院ならびに大学での臨床研修では、消化器内科のすべての領域をカバーできるよう配慮している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	0人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

[illegible]

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内分泌内科：下垂体、甲状腺・副甲状腺、副腎などの内分泌疾患を診断するため、各種ホルモン負荷試験など内分泌機能検査を実施し、その評価方法を研修する。
糖尿病内科：1型および2型糖尿病の診断、合併症検査、治療法を研修する。頻度の少ない稀な糖尿病、妊娠糖尿病などの症例の血糖管理を経験することもある。また、糖尿病療養指導を行うチーム医療のリーダーとしての役割も研修する。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	0 人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
米田 真康	内分泌・糖尿病内科	寄附講座 教授	20 年	糖尿病
沖 健司	内分泌・糖尿病内科	講師	19 年	内分泌
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1年目は大学病院または関連病院で多くのリウマチ・膠原病疾患の診療に携わり、診察、診断、治療の基本的な知識、技能を身につけます。2、3年目は研修医の希望により、大学病院あるいは関連病院での研修を選択することができます。4年目以後には大学院入学、国内のリウマチ専門病院での臨床研修あるいは大学病院でのさらなる専門研修を行い、リウマチ専門医の取得を一応の目標といたします。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	7人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
杉山 英二	リウマチ科(リウマチ・膠原病科)	教授	39 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

血液内科後期研修では、プロフェッショナルの“血液内科臨床医”に要求される血液疾患の診断法と治療法、さまざまな合併症の管理を高いレベルで実践するための幅広い知識と技術を習得するとともに、未知の病態解明や新規の診断・治療法の開発を目指すための“医学研究者”としての視点を習得することを目標とし、具体的には下記の内容の研修を行う。

1. 血液疾患の多彩な診断方法を習得する。
2. 各血液疾患の診断や治療に関わる専門的な知識を習得する。
3. 分子標的治療薬を含む抗腫瘍薬を用いた化学療法に精通する。
4. 造血幹細胞移植療法の適応を決定し、実施できる。
5. 免疫不全に伴う難治性の感染症をコントロールできる。
6. 血液疾患に随伴する合併症の治療に必要な全身管理法を習得する。
7. 患者さんのQOLに配慮し、重層的なチーム医療を実践する。
8. 治験や国際的な臨床研究の遂行に協力する。
9. 身近なクリニカルクエスションを臨床研究に発展させ、学会や論文で発表する。
10. 臨床での疑問を独創性あふれる基礎研究に結びつける。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	5人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
一戸 辰夫	血液内科	教授	30年	
福島 伯泰	血液内科	准教授	25年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

専門医研修として、広島大学病院腎臓内科・透析内科において、指導医のもと患者を受け持ち、腎臓病（糸球体疾患、尿細管間質疾患、急性・慢性腎不全の治療・管理）をはじめ、高血圧・膠原病・糖尿病に伴う腎症、電解質異常、輸液管理、血液浄化療法（血液透析・アフェレシス）、腹膜透析に関する診断・治療を修得するよう努めます。入院患者の新患発表、腎病理・透析カンファレンスを行い、腎疾患を含めた一般内科の基本的知識を学びます。早期に内科専門医、腎臓専門医、透析専門医取得を目指します。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	3人
-------------	----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
正木 崇生	腎臓内科・透析内科	教授	27年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

（注）1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

感染症学：感染症学会感染症専門医取得を基本目標として研修する。当院は日本感染症学会専門医制度認定研修施設であり、感染症専門医育成のためのカリキュラムにそった研修を行っている。

消化器外科学：外科専門医取得後のサブスペシャリティーとして消化器外科専門医，大腸肛門病専門医の育成を行っている．当院は消化器外科学会および大腸肛門病学会の修練認定施設であり，専門医取得に必要な勝利得の経験が可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	1人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

[illegible]

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

がんの診療における各種診断法、化学療法による治療、化学療法の副作用対策などについてより深い知識を習得することを目標としている。さらに、がん薬物療法専門医を目指すうえで必要な基本手技や知識を習熟するための研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	1 人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
杉山 一彦	腫瘍内科(がん化学療法科)	教授	35 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

全臓器の基本的な外科病理、臨床病理的な手法と考え方の習得また希少がんやAYA世代のがんを検索することが可能である。殊に新規に開発される様々な分子標的治療薬の効果予測因子を検索するためのコンパニオン診断の知識や検索をin houseで行い、評価方法も学ぶことが出来る。またがんゲノム医療の概念を理解し、有効な解析のための検体の取り扱い方を実習できる。更に多数症例の病理解剖を研修できる。全国的に病理解剖は減少傾向にあるが、本学の年間病理解剖数は約40-50例で、全国の旧国立大学病院の中では症例が多く、極めて多彩な症例の経験ができることは大きな長所である。細胞診についても様々な症例を研修することが可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	7人
-------------	----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
有廣 光司	病理診断科	教授	32年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

形成外科疾患全般の知識、技術習得を目的に、主には病棟医として専門医である診療科長のもと、下記の研修を行う。

- 1) 形成外科で扱う疾患を理解し、形成外科診療の基礎を理解し、実践すること
- 2) 救急を含んだ日常診療において遭遇する形成外科疾患の初期治療を習得すること
- 3) 創傷治癒や組織移植に関する基礎知識、術後管理の基本を幅広く学び熟度に応じて、手術にも積極的に参加する。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	1 人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
横田 和典	形成外科	教授	29 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

広島大学病院リハビリテーション科は、リハビリテーション科専門医研修プログラムの基幹研修施設であり、広島市立リハビリテーション病院、アマンリハビリテーション病院、山崎病院を統括している。高度の医療に関する研修を実施するため、リハビリテーション科専門医 2 名とリハビリテーション科専門研修指導医 1 名を有している。また平成 30 年 3 月にリハビリテーション科専門医試験を 2 名受験予定である。

広島大学病院は社団法人日本リハビリテーション医学会研修施設として認定されている。また、広島大学病院はがん治療センター（がん診療連携拠点病院）、小児がん拠点病院であり、高度救命救急センター、ICU、手術後 ICU を有し、特定機能病院として充実した急性期医療を展開している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 1 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
木村 浩彰	リハビリテーション科	教授	31 年	リハビリテーション医学会専門医、指導医
三上 幸夫	リハビリテーション科	助教	24 年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 木内 良明	
管理担当者氏名	病院総務グループリーダー 佐々木 浩 病院医事グループリーダー 新田 雅浩	

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務グループ 病歴管理センター	カルテは電子カルテで、広島大学病院情報システム運用内規の定めるところにより管理運用している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務グループ	
		高度の医療の提供の実績	医事グループ	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事グループ	
		高度の医療の研修の実績	総務グループ	
		閲覧実績	総務グループ	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事グループ	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事グループ、薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務グループ	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務グループ	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器管理室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器管理室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務グループ
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務グループ
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務グループ
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務グループ
		医療安全管理部門の設置状況	総務グループ
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術審査部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品等審査部
		監査委員会の設置状況	総務グループ
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	財務・総務室総務グループ
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務グループ
		管理者が有する権限に関する状況	総務グループ
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務グループ
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	財務・総務室総務グループ

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院運営支援部長 新本 陽一郎	
閲覧担当者氏名	病院総務グループリーダー 佐々木 浩	
閲覧の求めに応じる場所	総務グループ事務室	
閲覧の手続の概要		
閲覧希望者の求めに応じて、総務グループ室内で行っている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 【医療安全管理のための指針】 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 用語の説明 1) 医療上の事故等（インシデント） 2) ヒヤリ・ハット（ゼロレベルインシデント） 3) 医療過誤（法律用語） 4) 合併症 3. 医療安全管理に関する推進方法 1) 医療安全管理体制の構築 2) 医療事故・インシデントなどの報告制度の確立 3) 職員に対する医療安全教育・研修の実施 4) 事故発生時の対応方法の確立 5) 医療事故の公表と報告 4. 医療安全管理に関する指針の閲覧について 5. 患者相談窓口について	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年71回 ・ 活動の主な内容： 【医科・歯科共通】 1) 「医療安全管理委員会」は、月1回開催し、本院の医療安全管理の統括的な事項について審議する委員会で、「患者影響レベル判定小委員会（医科領域）」及び「医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）」を統括し、医療の安全管理、医療事故の防止、医療訴訟に関する事項を審議する。 また、「医療安全管理委員会」は、「患者影響レベル判定小委員会（医科領域）」、「医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）」及び「医療安全管理部会議」から改善策等の審議内容の報告を受けて審議決定し改善策やマニュアルについて医療安全管理部に周知徹底するようフィードバックする。 （年12回） 2) 「医療安全管理部会議」は、隔週で開催し、医療事故防止及び安全性の確保に必要な企画・立案及び評価を行うとともに、医療現場において機能的に対処・指導を行い、病院内の医療安全に関する対策と意識向上を図る。（年26回） 【医科領域】 1) 「患者影響レベル判定小委員会（医科領域）」は、インシデントレポートの患者影響レベルの判定と医療事故の定義に照らして、患者影響レベル3a以上の過誤が疑われる、又は、患者影響レベル3b以上の事象について、患者影響度・原因・医療過誤の有無を判定し、病院長に報告する。（年21回）	

【歯科領域】

- 1) 「医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）」は、月1回開催し、歯科領域のインシデントレポートに基づき、患者影響レベルの判定及び医療事故の防止策等を審議する。医療過誤がある事例については病院長へ報告する。（年12回）

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年9回

- ・ 研修の内容（すべて）：別紙①のとおり

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【医科・歯科共通】

- 1) インシデント報告制度の目的や趣旨が十分に伝わるように研修会やリスクマネジャー会議を通じて伝達している。
- 2) 病院全体に係る重要事象の分析・改善策は医療安全管理部で検討し、医療安全管理委員会で審議のうえ、病院運営会議で報告し、改善策の周知徹底を図る。
- 3) 院内安全巡視等を行うことで、改善状況を評価する。
- 4) 発生した重大なインシデントについては、現場のリスクマネジャーを中心にチームで分析・改善策を検討し、医療安全管理部に報告する。医療安全管理部は、必要に応じて事実確認及び詳細な情報収集を行い、要因を特定し、対策を立案し、医療安全管理委員会へ報告するとともに、リスクマネジャー会議へフィードバックする。
- 5) 月々のインシデントレポートのマクロ的な集計結果及び重要事象の分析結果をリスクマネジャー会議で報告し、情報の共有化を図る。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項 (1) 感染症対策委員会 (2) 感染制御チーム (ICT) , 感染対策リンクナース及び感染対策実践者 3. 院内感染対策のための従業員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (1) 通常時の対応 (2) 緊急時 (重大な院内感染等の発生) の対応 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 病院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 5 1 回
・ 活動の主な内容： 【医科・歯科共通】 1) 「感染症対策委員会」は、月 1 回開催し、院内の感染防止のための調査、研究、対策に関する事項の統括審議を行い、また、小委員会の審議結果の調整及びその他感染症に関する事項の審議を行う。(年 1 2 回) 2) 「感染制御チーム会議」は月 1 回開催し、院内感染情報等の収集、調査、分析を行い、院内感染防止のための対策及び啓発の企画・立案並びに情報提供に関する審議を行う。(年 1 2 回) (臨時 2 回) 【医科領域】 1) 「感染症対策小委員会 (医科領域)」は、月 1 回開催し、医科領域に関し、院内の感染防止のための対策、感染情報レポートの分析・活用及び針刺し (穿刺) 感染に関する事項の審議を行う。また、感染防止に係る教育・研修及び院内感染防止に係るマニュアルの策定・改訂に関する事項を審議し、周知徹底するようフィードバックする。(年 1 2 回) 【歯科領域】 1) 「感染症対策小委員会 (歯科領域)」は、月 1 回開催し、歯科領域に関し、院内の感染防止のための対策、感染情報レポートの分析・活用及び針刺し (穿刺) 感染に関する事項の審議を行う。また、感染防止に係る教育・研修及び院内感染防止に係るマニュアルの策定・改訂に関する事項を審議し、周知徹底するようフィードバックする。(年 1 2 回) (臨時 1 回)	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の内容 (すべて) : 別紙②のとおり	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

感染対策の実務を行うICT活動を実施し、情報の収集と対策について、現場へフィードバックをする。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	1年 約10回
- 研修の主な内容： 「医療安全管理職員研修会 薬の適正使用～薬剤関連インシデント～」全職員対象に、医療安全管理研修会の一部として実施 「安全なミキシングについて」 全職員対象に、薬剤部の製剤室にて見学実習・研修会 「薬剤部の業務内容と医薬品安全対策について」 研修医オリエンテーション 「医薬品の医療安全（薬のここに気をつけよう）」新規（新人・中途）採用看護師	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (有・無) - 業務の主な内容： 随時、必要時に、各業務の部門責任者及び業務担当責任者が手順書の業務内容に該当する項目が守られているか確認して見直しを図っている。また、薬品管理に関しては、担当者が看護師と協力してマニュアルに基づいて管理を行うとともに、医薬品安全管理責任者（必要に応じて担当者）が必要時実施状況の確認が必要と思われる部門に出向いて確認を行っている。 また、業務の実施状況の確認については、医療安全管理部と連携して院内ラウンドを実施している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 未承認：H30年年度は無し 適応外：進行期乳房外Paget病に対するTriweeklyドセタキセル療法（ドセタキセル） - その他の改善のための方策の主な内容： ①医科および歯科の院内業務連絡会議にて年1回周知を実施し、未承認新規医薬品等審査部の概要と申請の必要性について周知している。また、院内webにも組織図や内規を掲載し、未承認や適応外使用への理解の定着を図っている。 ②各診療科へそれぞれ年1回、使用調査および使用報告依頼を実施している。これにより、当該年度の新規未承認および適応外の使用薬の把握が可能となり、昨年度の使用件数、有効性および安全性の把握に努めている。 ③薬剤師向けに未承認新規医薬品等審査部の業務について広報を実施。普段の業務中に未承認等に該当する医薬品を発見した場合は、医師への疑義照会に加え、エクセルシートに疾患名や薬品名をリストアップしている。これにより、医師が申請していない場合でも、審査部が把握することができている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容： 医療用ポンプの使用に関する説明会 心電図・除細動器の使用に関する説明会 人工呼吸器の安全使用に関する説明会 下肢静脈血栓予防装置の使用に関する研修会	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (☒有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 特定保守管理機器に関しては取扱説明書に準じて定期的かつ必要事項を点検している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 事例なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAのメーリングサービスに登録し、知り得た情報を必要な部署へ報告する。 院内の医療安全管理部に所属し、会議等で情報を収集、改善策を検討する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理担当の副病院長を医療安全管理責任者として配置し，統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・採用医薬品について，添付文書，インタビューフォーム，使用上の注意の解説，製品情報概要等入手し，専用キャビネット及び電子ファイルとして薬剤部サーバで保管している。 ・添付文書の改訂情報を把握し，改訂時には新添付文書及び改訂内容を解説した使用上の注意の改訂のお知らせを当該医薬品の製造・販売企業より入手する。 ・緊急安全性情報・安全性速報の発出時，およびこれらに準じる緊急性の高い情報を取得した際には，医薬品安全管理責任者へ報告し，関係者と緊急度および重要度に応じて対応を協議している。 ・使用患者を特定して対応する必要がある場合には，診療DWHを使用して情報収集を行い，関係部署へ直接連絡を行って，対応を協議する。必要に応じて診療DWHから抽出した情報に基づいて，当該患者の担当診療科・担当医師に対して患者一覧を添えた通知や，個別の患者への通知を行う。 ・効能効果・用法用量の追加・変更情報，処方日数制限の変更，採用医薬品の取り扱いの変更や供給に関する情報などについて，内容に応じ適宜書面，院内情報ウェブ掲示板を用いて通知を行う。 ・その他，添付文書情報の改訂，各機関から発出された安全性情報などは原則月1回，まとめて各部科長，病棟看護師長，薬剤部各部署に通知し，病院情報システムグループを通じて院内掲示板にも掲示する。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <未承認薬について> ・当院は，オーダーリングシステムによってオーダ入力された処方について調剤を行っている。未承認薬は，オーダーリングシステムに登録されていないことから誤って調剤することはない。 <適応外使用および禁忌に該当する医薬品の使用について> ・入院患者については，全病棟に薬剤師を配置しており，病棟担当薬剤師が全患者の処方について	

チェックを行い、医師へ情報提供や処方変更の提案・相談などを行っている。その結果は、病棟薬剤業務・薬剤管理指導記録へ記録しており、その記録は電子カルテに保管され、医師や看護師を始めとして全職種が確認可能となっている。該当する医薬品の使用を認めた場合は、薬剤部へ報告する。

- ・外来患者については、随時医師の相談に応じて対応している。
- ・処方オーダー時に、併用禁忌に関してはアラートが出るシステムとなっている。
- ・薬剤師からの情報提供や医師や看護師からの質問や相談、処方変更などの内容は、全て院内インシデントシステムにてブレアボイド報告として記録されている。これらの情報は、毎月全職種が出席するリスクマネージャー会議にて報告され、院内全体に情報共有され、注意喚起が行われている。

* なお、2017年4月、未承認新規医薬品等審査部（以下、審査部）および未承認新規医薬品等評価委員会（委員会）を設置した。具体的については、規則第9条の23第1項第8号の「⑧未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況」を参照。

・担当者の指名の有無（☒有・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部，職種 薬剤師）	（所属：，職種）
（所属：，職種）	（所属：，職種）
（所属：，職種）	（所属：，職種）
（所属：，職種）	（所属：，職種）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☒有・無）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：量的監査実施時、記載されている内容等を実施手順に則って行っているか確認している。

記載内容等が適切ではないと思われる場合、関係診療科へ結果を報告し充実したカルテ記載を行うことを、指導の主な内容としている。

また、外来医長、病棟医長に紙媒体でチェックシートを配付し、各診療科として遵守できているか評価後、病歴管理センターで結果を集計している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 毎月全退院患者の診療録について、量的監査、記載内容の確認を行い、年数回特定の入院・外来診療録の記載について、医師・歯科医師による質的監査を行い、結果を各診療科へフィードバックするとともに全診療科で構成している委員会にも報告している。診療録記載の充実について、啓発を行っている。主な指導内容は、カルテ記載が乏しい項目について指摘し、情報開示に耐えうる内容にするよう促している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（ ）名 うち医師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（ ）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： １）委員会の運営及び決定事項の周知徹底並びに委員会その他関係部署との連絡調整 ２）医療安全対策の推進 ３）医療安全の確保に資する診療状況の把握及び職員の意識向上 ４）医療安全に係る教育・研修の企画立案 ５）医療安全に係る各種マニュアルの管理 ６）医療事故等に関連する情報の収集、調査及び分析 ７）入院患者の死亡及び医療上の重大事象に係る職員からの報告に関すること ８）医療事故等に関する診療録等の記載内容が正確であるかの点検及び指導 ９）患者及び家族への説明等、医療事故発生時における対応状況の確認及び指導 １０）医療事故等の原因究明の実施・確認及び指導 １１）定期的な院内の巡視 １２）手術時の血栓予防策実施率のモニタリング ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1 件），及び許可件数（1 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
審査部では，各診療科等から提出される申請書を確認の上，審査部内に設置された高難度新規医療技術評価委員会からの意見を踏まえ，提供にあたっての条件などを含め，医療提供の適否について決定します。また，提供を認めた症例について，適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか，確認を行います。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（39 件），及び許可件数（32 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
審査部では，各診療科等から提出される申請書を確認の上，審査部内に設置された未承認新規医薬品等評価委員会からの意見を踏まえ，使用にあたっての条件などを含め，使用の適否について決定します。また，使用を認めた症例について，適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか，確認を行います。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年518件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年44件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

専任リスクマネジャーは、医事グループ及び病歴管理センターから提出された、退院サマリー、死亡診断書の内容、死亡退院時スクリーニングシート及び電子カルテ内容を確認し、死亡退院までの経緯を把握する。このことは、医療事故調査制度にも関連することから、毎月1回医療安全管理委員会にて死亡事例調査報告書をあげ、入院患者の死亡事例について審議を行っている。緊急かつ重大な事象が発生した場合は、医療安全管理マニュアルにその一般的な対応方法を定めているが、当該事象に対する具体的な対応を審議するための危機管理室、病院長が関係者からの事情聴取による事実確認を行い、その結果、医療法に定める医療事故の発生その他必要な事項を判断する症例検討委員会、医療の安全確保に関し、医療事故に係る原因の調査究明及び再発防止を行う医療事故調査委員会が、それぞれの任務にあたっている。

また、緊急かつ重大な事象以外のインシデントが発生した場合、当事者又は発見者は、発生後速やかに、インシデントレポートにより報告することを医療安全管理マニュアルに定めている。その流れ・患者影響レベルの選別において、専任リスクマネジャーによるレベル選別会議及び医療安全管理部会議においてレベル3a以上の事象を選定後、患者影響レベル判定小委員会（医科領域）及び医療事故防止等対策小委員会（歯科領域）の審議を経て、必要に応じて医療安全管理委員会で「事例報告書及び改善策検討報告書」の審議や当該改善策の実行を指示している。また、リスクマネジャー会議を通じて、各リスクマネジャーに当該事案の周知や実践を図っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒（病院名：筑波大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒（病院名：旭川医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

・インシデントやアクシデントの報告等の状況について、「医師によるインシデントレポート提出件数が少ないのではないか。」という助言（改善事項）に対する取り組みとして、医師・歯科医師より、合併症・偶発症の報告ができる入力システムの導入を検討している。

・「未承認薬審査に関して臨時会議が多いように思えます。計画性を持つことで、更に充実した会議を実施していけるのではないのでしょうか。」という助言に対しては、医師へ審査体制の周知を図っているが、抗がん剤の適応外に関する申請が多く患者の急変も多いことから計画性を持たすことが困難な状況にある。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者・家族等からの相談等に応じられる体制を確保するための患者相談窓口として、患者支援センター医療相談室を設置しており、当該相談等で医療安全に関わるものについては、医療安全管理部と連携して対応し、安全対策の見直し等に活用している。

--

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

別紙①のとおり

2018 年 9 月 18 日開催の医療安全管理職員研修会「薬剤の適正使用」の中で、未承認新規医薬品・医療機器等の使用手続きに係る申請手順等について説明。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者（病院長） 木内 良明

平成 30 年度特定機能病院管理者研修[第 1 回（9/17～18）]に参加

医療安全管理責任者（副病院長） 岡田 守人

平成 30 年度特定機能病院管理者研修[第 3 回（1/21～22）]に参加

医薬品安全管理責任者（薬剤部長） 松尾 裕彰

平成 30 年度特定機能病院管理者研修[第 4 回（2/6）]に参加

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

平成30年度 医療安全管理職員研修会

●医療安全管理部主催

【必修】

3/31現在

月	テ　　マ	講　　師	対　象	日 時・場 所	参加者数	
1	5	「当院の医療安全管理体制について」 医療法の改定、診療ルール、インシデント報告のルール、 昨年度の警鐘事例、職員研修受講の必要性	医療安全管理部 岡田 守人 部長	全職員	5月14日(月)17:45～18:15 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修会)	2,824
2	5	「当院の医療安全管理体制について」 重大事象発生時の対応	医療安全管理部 渡谷 祐介 専任リスクマネジャー	全職員	5月14日(月)18:15～18:45 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修会)	2,804

【選択】

月	テ　　マ	講　　師	対　象	日 時・場 所	参加者数
3	4	「リスクマネジャーの役割について」 医療安全管理部 新谷 公伸 専任リスクマネジャー	リスクマネ ジャー	4月10日(火) リスクマネジャー会議開催時 医学部第4講義室	86
4	6	「造影剤の副作用対策およびMR室への金属持ち込みの危険性」 放射線診断科 飯田 慎 診療准教授	全職員 (新規採用 者必須)	6月18日(月)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修会)	178
5	7	「正しく検査を行うために―検体採取から提出まで―」 検体検査部門 大盛 美紀 副部門長	全職員 (新規採用 者必修)	7月17日(火)17:45～18:45 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修会)	160
		「病理検体の正しい取り扱い」 病理診断科 有廣 光司 教授			
6	9	薬剤の適正使用 薬剤部 柴田 ゆうか リスクマネジャー	全職員 (研修医必 修)	9月18日(火)17:45～18:45 医学部第4・5講義室	182
		PCAを安全に使用するために 麻酔科 濱田 宏 准教授			
7	10	軽症くも膜下出血の見落とし防止 脳神経外科 岡崎 貴仁 助教	全職員 (新規採用 者必修)	10月25日(木)17:45～18:30 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修会)	93
8	12～1 (複数開 催)	BLS(一次救命処置研修(予定)) ACLSインストラクター	医師・ 歯科医師・ 看護師以外	【第1回】12月7日(金)17:45～18:45 【第2回】1月22日(火)17:45～18:45 医学部セミナー室2	30
9	1	【専門医共通講習】 「トラブル発生時の患者への初期対応について」 寺西康一郎法律事務所 寺西 康一郎 弁護士	全職員 (新規採用 者必修)	1月21日(月)18:00～19:00 医学部第4・5講義室 (DVD視聴研修会)	181

平成30年度 院内感染防止対策研修会

●感染制御部主催

【必修】

3/31現在

3/31現在						
月	テ　　マ	講　　師	対　象	日 時・場 所	参加者数	
1	6	「みんなで目指そう「麻しんがゼロ」」	小児科 土居 岳彦 診療講師	全職員	6月7日(木)17:45～18:15 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修含)	2,818
2	11	「肝炎ウイルス感染に関する最近の話題と基礎知識」(予定)	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 疫学・疾病制御学 田中 純子 教授	全職員	11月26日(月)17:45～18:15 医学部第4・5講義室 (DVD上映会・DVD視聴・e-ラーニング研修含)	2,700

【選択】

月	テ　　マ	講　　師	対　象	日 時・場 所	参加者数
3	9	第1回抗菌薬適正使用研修会 「抗菌薬の基本的な考え方」	薬剤部／感染制御部 久保 有子 薬剤師	全職員 9月4日(火)17:45～18:15 診療棟5階 カンファレンスルーム1-3	114
4	2	【専門医共通講習】 第2回抗菌薬適正使用研修会 「薬剤耐性(AMR)対策のためにできること」	感染症科 梶原 俊毅 診療講師	全職員 医科専門医 2月4日(月)17:45～18:45 診療棟5階 カンファレンスルーム1-3	68

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 (1) 医師法(昭和23年法律第201号)に定める医師免許証を有する者 (2) 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有する者 (3) 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有する者 (4) 教育、研究及び診療に必要な資質及び能力を有する者 - 基準に係る内部規程の公表の有無 (有・☒無) - 公表の方法 - ホームページへの掲載 (予定)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☒ 無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) - 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☒ 有・無		
・合議体の主要な審議内容 (1) 病院情報(診療情報及び運営情報等)の収集・分析に関する事項 (2) 医療提供体制の基本戦略の立案と評価に関する事項 (3) 予算, 人員, 設備等の資源配分の立案と実施に関する事項 (4) 病床, 手術室等の適切な使用割り当ての方針に関する事項 (5) 医療機器, 医薬品, 医療材料等の戦略的調達 of 企画立案に関する事項 (6) 病院の運営戦略の企画立案に関する事項 (7) 病院における実習, 研修, 研究の在り方に関する事項 (8) 病院の諸活動の自己点検・評価に関する事項 (9) その他必要な事項の企画・立案に関する事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 会議終了後, 資料及び議事録を学内ポータルへ掲載 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・☐無) ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・☐無)			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
木内 良明	○	医師	病院長
柴 秀樹		歯科医師	主席副病院長
工藤 美樹		医師	副病院長 (診療担当)
香西 克之		歯科医師	〃 (歯科教育・研修担当)
田中 信治		医師	〃 (医療安全管理担当)
大毛 宏喜		医師	〃 (経費改善担当)
田妻 進		医師	〃 (医科教育・研修, 国際化担当)
岡田 守人		医師	〃 (研究・基金担当)
山本 雅子		看護師	〃 (看護担当)
新本 陽一郎		事務	〃 (管理運営担当)
正木 崇生		医師	病院長補佐 (医科診療担当)
志馬 伸朗		医師	〃 (災害担当)
柿本 直也		歯科医師	〃 (歯科診療担当)
木村 浩彰		医師	〃 (地域連携・勤務環境改善担当)
太田 耕司		歯科医師	〃 (歯科感染担当)
松尾 裕彰		薬剤師	薬剤部長
伊藤 義広		理学療法士	診療支援部長
津賀 一弘		歯科医師	副学長 (医系科学研究担当)
木原 康樹		医師	〃 (研究開発担当)
栗栖 薫		医師	副理事 (資金調達担当)

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
大学ホームページ
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 病院長が病院の業務を掌理
 - ・ 副病院長等の選考方法
 - ・ 副病院長等の担当
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長：病院長の業務の一部を分担し、病院長を補佐、以下の担当9名を配置
（主席副病院長 / 診療担当 / 歯科教育研修担当 / 医療安全管理担当 / 経費改善担当 / 医科教育研修・国際化担当 / 研究・基金担当 / 看護担当 / 管理運営担当）
 - ・ 病院長補佐：病院長の管理運営等に関して病院長を補佐、以下の担当5名を配置
（医科診療担当 / 災害担当 / 歯科診療担当 / 地域連携・勤務環境改善担当 / 歯科感染担当）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
厚生労働省が公益財団法人日本医療機能評価機構に委託し実施している、「特定機能病院管理者研修」の受講

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ 有 ・ 無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回（平成 30 年 7 月 30 日，平成 31 年 3 月 25 日実施） ・ 活動の主な内容： 医療に係る安全管理体制について ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法： 病院ホームページに掲載					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
渡邊 弘司	広島県医師会・ 常任理事	○	医療に係る安全管理 に関する識見を 有する者	無	1
福永 宏	福永宏・福永孝 法律事務所・弁 護士		法律に関する識見 を有する者	無	1
中川 圭	認定 NPO 法人乳 がん患者友の会 きらら・理事長		医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
広島大学内部統制規則に基づく
- ・専門部署の設置の有無（有・☒無）
- ・内部規程の整備の有無（☒有・無）
- ・内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・公表の方法
大学ホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ・ 役員会：大学の重要事項を審議，メンバーは学長及び理事 原則として毎月1回開催 ・ 経営協議会：大学の経営に関する重要事項を審議，メンバーは学長，理事及び学外有識者 学長が必要と認めたときに開催 ・ 会議体の実施状況（ 年26回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒有・無 ）（ 年23回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページ			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 0 件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
学内ポータルサイト及び大学ホームページに掲載